

## 翻刻「公法纂例 乾」(一)

宮脇 啓  
牧原 成 征

### 翻刻にあたって

東京大学総合図書館(南葵文庫)所蔵『公法纂例』は、乾・坤の二冊からなり、ここに翻刻する乾は、主として貞享・元禄期における、江戸幕府評定所の裁許の結果を、二九〇件あまり収録したものである。収録年代の上限は万治四年(一六六一)、下限は元禄七年(一六九四)である。それをあまり下らない時期に、評定所に集積されていた記録をもとに、便宜的に項目を立てて編纂された判例集があり、本書はその原形に比較的近いとされる伝本である。

江戸幕府の法制史上は寛保二年(一七四二)に編纂された『公事方御定書』が画期とされており、その後、それに準拠してなされた評議の記録を集めた判例集『御仕置例類集』も編集される。しかし、公事方御定書以前の裁許記録は少なく、『公法纂例 乾』はそれに当たるものとして注目されてきたが、これまで翻刻は公刊されていない。

ここにそれを翻刻し、参考に供したい。

本来であれば、ここで本書をめぐる先行研究を紹介・検討し、その全体の検討によって得られる知見や論点を整理して記すべきだろうが、近年、これを用いた研究として、和仁かや「近世前期の評定所裁判——『公法纂例』にみる判断のあり方——」(藤田覚編『幕藩制国家の政治構造』吉川弘文館、二〇一六年)があるので、ひとまずは同論文に譲り、「乾」の全体を翻刻・紹介し終えた後に、気づいた論点のいくつかを記すことで責めを塞ぎたいと思う。記事には漢数字で通し番号を振り、今回の(一)では、「(一)」から「(一一〇)」までを掲載する。

解説・翻刻は宮脇が行い、牧原がそれを校閲し、「翻刻にあたって」も牧原が記した。所々に判読不能の箇所があるが、基本的に虫損である。「船」は船、「訴訟」は訴訟、仮名の与は「と」、「ち」は「より」と表記した。

なお、本研究はJSPS科研費18K00956の助成を受けたものである。

(表紙)

「公法纂例 乾」

目錄

一直目安	一御朱印御小袖上	一御朱印上	一養子借金	一後住	一先住借金後住不濟
一國境論所	一村境論所	一田畑	一先住借金後住濟	一先住道具	一女房家出
一社役田畑	一田畑新盛	一社地門前	一夫嫌	一女房土產	一養子土產
一御朱印地畝歩不足	一御朱印社地	一山	一離別	一離別女又添	一久離之姪預
一山 新開	一野 新畑	一野	一主人二為手負	一主殺	一古主江為手負
一茅野	一草野	一山林秣薪	一師匠二為手負	一亂氣主人二手向	一亂氣師匠二為手負
一山林	一境内山	一川	一亂氣人殺	一亂氣人不及下手人	一亂氣人
一堤	一堤川除	一堰	一理不尽	一卒尔人	一卒尔
一用水	一獵場	一秣場	一卒尔敵討	一人殺	一人人を頼弟殺
一論所人殺	一御林木盜人	一秣盜人	一被討損	一意趣打	一自害人
一裁許破	一相繪図滯	一背御代官	一為手負人	一人勾引	一人勾引
一背地頭	一背地頭逃散百姓	一名主私欲	一人勾引	一人勾引遊女奉公	一娘遊女奉公
一田地永代売	一落名并永代売	一名主私欲	一從弟女遊女売	一養娘比丘尼売	一遊女売
一質田地	一質田地年貢地主勤	一年季不限質田地	一関所忍通	一狂言役者	一請人
一町並分付屋敷	一質田地年貢地主勤	一年季不限質田地	一奉公人身代金	一不束之訴訟	一引負
一位違	一入石	一小作	一取逃欠落者請人	一請狀不取内欠落者	一請人我俣
一海道寄馬	一馬次	一船次	一流罪人給金主人江弁濟	一流罪二成候者借金証人	一非人奉公人二出又請人
一廻船	一船荷物盜売	一廻船盜荷物	一下請	一欠落者逃散	一壳懸主人弁濟
一船頭并船宿私曲	一荷物押	一跡式	一囚人逃	一取替金店請弁	一店請
一讓金諍論	一田地	一田地家	一店立	一手鎖二而相果	一横売
一跡式	一田畑家財	一家財	一預ケ金	一古借金	一日切手形焼失
一養子妨	一主人借金	一父借金	一鑄物師	一髮結床	一車力日雇賃
			一藍瓶役	一細工人弟子	一手木錘取替
			一盲目	一穢多旦那寺	一高野山訴論
			一不受不施	一主人江難題	一不孝人

- 一人を質取
- 一盜物質
- 一預り物
- 一似手形謀判
- 一沽券状謀書
- 一不束之印判
- 一騷働討
- 一密通
- 一主人之後家と下人密通
- 一式人妻
- 一人捨
- 一犬疵付
- 一死猪埋置を盜
- 一無玉鉄炮
- 一日なし銭
- 一相請
- 一疑敷預金
- 一牢屋焼失預
- 一秋葉祭
- 一落書
- 一不屈之訴訟
- 一無下知人足遣
- 一永手錠
- 一馬盜
- 一盜物取次
- 一はつし金物売買
- 一年付書違
- 一関所似手形似金
- 一背支配
- 一手鎖外シ
- 一他之下女と不作法
- 一出家女難
- 一式人夫
- 一捨馬
- 一犬損
- 一馬殺
- 一車借
- 一仲間金
- 一普請金
- 一嶋赦免
- 一人殺尋赦免
- 一灸針
- 一落文
- 一壳葉似七
- 一御証文廻無昼支度
- 一永尋
- 一盜人
- 一質無請
- 一預り物
- 一謀判
- 一似七金
- 一追放者所徘徊
- 一町人帶刀
- 一傍輩之不作法
- 一妾不作法
- 一押而縁組
- 一生類龐末
- 一猪殺
- 一馬損
- 一借錢
- 一開帳仲間
- 一無尽金
- 一追放赦免
- 一手錠
- 一馬物言候由申触候者
- 一語取雜物
- 一毒飼
- 一永牢
- 一評定所定書

(二) 直目安

一貞享五辰九月三日山王江被遊 御社參、還御之節、鳥居之内石橋之辺、門前町伊勢屋甚兵衛店前より、都筑長左衛門御代官所越前国勝山領百姓玉木又左衛門、上下着、直目安差上候処、御供之衆押留候得共目安上り、又左衛門者召捕、從御目付柴町奉行所江差遣二付、又左衛門并下人善兵衛、同日之夜揚り屋江入置候処、同四日式日阿部豊後守殿御出座有之而、又左衛門直目安差上候趣、評定之面々可遂僉儀旨被仰渡二付、又左衛門遂穿鑿之処、先地頭松平越前守領知之節、同領酒屋と公事申出候へ者、下役人申付二而商売二離候、家老共申付候ハ、異儀無之儀二候、且又相手之者又左衛門江誓詞認差越候ハ、申分無之ニ付、其旨相手江申候へ者、誓詞可仕由相手雖申之、熊野牛王之裏ニ神文仕候而者又左衛門難用候、一向宗之本尊之裏ニ罰文認候ハ、申分無之候、今以其所存候由申之、不埒二相聞候、下人善兵衛次ニ山王門前町甚兵衛同日罷出令僉議処、善兵衛ハ主人又左衛門ニ付出候迄ニ而何之訳茂不存旨申候、甚兵衛ハ又左衛門近付ニ而茂無之候得共、店先より出候由申之、店前ニ罷有候を不存段不屈ニ付揚り屋江入ル、月行事安左衛門不吟味之段、依為越度同日手錠掛置候、同十七日於間之間戸田能登守・甲斐庄飛驒守・御勘定頭三人江、致直訴候又左衛門今日被遊御免候間、出牢之上所江返候様豊後守殿被仰渡候ニ付、又左衛門并下人善兵衛、同日於松平孫太夫宅出牢之上在所江相返ス、甚兵衛・安左衛門、同日戸田能登守宅ニおゐて甚兵衛出牢、安左衛門手錠令赦免候、口書評定所有之、

- 酒井河内守 甲斐庄飛驒守 佐野長門守 荻原彦次郎
- 右出座 戸田能登守 小菅遠江守

米津出羽守 北条安房守 松平孫太夫 諸星伝左衛門

右出座 戸田能登守

本多紀伊守 川口撰津守 稲生伊賀守 諸星伝左衛門

(二) 直目安

一元禄七戌正月廿日上野 御参詣之刻 御成先黒門内ニ而無宿八十郎  
歳三十式、直目安差上ニ付、御供之衆押捕之候、然処土屋相模守  
殿・加藤佐渡守殿御差図ニ而、能勢出雲守番所江溝口修理組与力窪  
田新五兵衛・竹井十郎左衛門・吉村又市郎召連来ニ付、八十郎揚り  
屋江入置候処、評定之面々可遂穿鑿之旨御老中被仰渡ニ付、同月廿  
三日評定所江召出令僉議候処、八十郎父八左衛門儀、諏訪勘兵衛知  
行所房州山名村百姓ニ候之処、式拾五年以前戌十二月地頭高免之訴  
訟申出候、板倉内膳正殿御出座之刻、八左衛門其外拾老人於評定所  
牢舎、翌亥七月出牢之上拾式人之内六人江戸房州追放被仰付、八左  
衛門儀右六人之内ニ而在所居住不罷成、上総下総之内ニ而年月を送  
り候、父母年寄候間追放赦免之訴訟地頭勘兵衛方江去五月も申出、  
其後評定所へも訴候得共取上無之候、追放御赦免ニ而古郷山名村江  
百姓一門を頼、両親養育仕度奉存直訴仕候、尤先年之御追放之儀者  
御詮議之上ニ而候へ者、其段只今御吟味被下候様ニと申上ルニ而者  
無御座、両親及鶴命候間、先年之御科御免被遊御返し被下候様奉願  
迄ニ而御座候旨八十郎申之、則証文差出ニ付、此段御老中御列座之  
刻申上候へ者、同二月七日、土屋相模守殿被仰渡候者、八十郎義親  
之儀を訴訟申出、其上追放も年久敷事ニ候□、御赦免被遊候間、出  
牢申付、親八左衛門一所ニ山名村江可相返旨被仰渡ニ付、同日諏訪  
勘兵衛家来押田貞右衛門、出雲守番所江呼出之右之趣申合、八十郎  
相渡遣ス、

松浦壱岐守 能勢出雲守 松平美濃守 萩原彦次郎

(三) 御朱印 御小袖上

大久保加賀守殿御出座式日跡立会

元禄元辰十二月四日

一浅草天王町孫兵衛訴出者、孫兵衛祖父惣次郎儀、 権現様伏見ニ

被為成 御座候節、伏見江戸両 御城之瓦惣次郎ニ被仰付、従伏見

江戸迄之伝馬之 御朱印頂戴仕、其以後白綾之 御小袖壹ツ・御持

扇子拝領仕致所持候を、差上度旨願候ニ付取上置候、右三色上野役

者覚王院江相渡可焼失旨申渡、ケ様之類者兼而御老中江伺置、如斯、

酒井河内守 甲斐庄飛驒守 松平孫太夫 萩原彦次郎

右出座 戸田能登守

本多紀伊守 北条安房守 戸田美作守 諸星伝左衛門

(四) 御朱印上

一元禄四未六月廿五日、新材木町巳之助店喜兵衛・堀江町彦兵衛手代  
小兵衛・箔屋町宗入店八兵衛手代五兵衛訴出候者、遠州市市場村平左  
衛門・同国下村長三郎儀、七年以前同国秋葉祭礼之儀ニ付、平左衛  
門・長三郎御追放被仰付候、拙者共為ニハ右兩人伯父ニ而御座候、  
長三郎・平左衛門伴伝十郎・善太郎御訴訟申上候者、長三郎方ニ所  
持仕候 権現様 御朱印、天正十七年七月七日遠州うかりの郷百  
姓ニ被下置候 御朱印差上度由、右三人之者訴之付、未六月廿五日  
御朱印取上、上野役者呼出可焼失旨申渡相渡ス、

小笠原佐渡守 北条安房守 松平美濃守 萩原彦次郎

右出座 戸田能登守

本多紀伊守 能勢出雲守 稻生伊賀守 諸星伝左衛門

〔五〕 論所

国境

松平日向守殿御出座式日跡立会

藤堂和泉守領分 白樫村

貞享三寅二月廿三日

甲府殿御領 石井村

一伊賀国白樫村与大和国石井村国境論、為檢使松平彦太夫・万年長十郎被差遣、遂檢分処、論所之内白樫村百姓数十年令開發新田式ヶ所  
有之、石井村百姓不及異儀、然則為白樫村之地条歷然也、就中白樫村百姓申所、堀切四ヶ所之事、隣国之峰を以堀切為境証拠所々有之間、白樫村之者申旨理運也、且又從歛礮石谷川之水流鳴ヶ原村迄相分由、石井村之者雖申之、從紋頂至山下称峰切水流之事為通例処、麓之細溝今般水流之証拠ニ申立儀、一向不謂事、  
一白樫村之百姓、所指之勝尔、從酒盛地至歛礮石、或山之半腹或切崖見通山境之由申之、雖然同領他領近郷之山、大略を以、峰為境証拠数多有之間、弥檢分之通を正し、堀切之境用之、酒盛地迄境相定、以繪図裏書裁許、

大久保安芸守 甲斐庄飛驒守 大岡備前守 佐野六左衛門  
右出座 坂本内記 彦坂伯耆守

本多淡路守 北条安房守 仙石和泉守 国領半兵衛  
大久保加賀守殿 戸田能登守殿 御加判  
阿部豊後守殿 松平日向守殿

〔六〕 国境

阿部豊後守殿御出座式日跡立会

松平肥前守領分 脇山村

元禄六酉十月十二日

松平丹後守領分 久保山村

一筑前国早良郡板屋村・脇山村・椎原村百姓と肥前国神崎郡久保山村百姓、兩國境論、為檢使佐久間小左衛門・設樂勘左衛門被差遣之、遂糺明処、筑前国百姓所訴不慥、段々申分ヶ無之、吟味之上令至極旨、筑前国百姓証文差出候、且又正保四年佐賀領主、公儀江所差上之官庫ニ有之一国繪図ニ、上宮岳・弁財天堂之図記之、福岡領主所上之繪図不載之、剩百三拾年余、中宮多門坊・弁財天堂守之中宮・下宮坊中之寺領五百八拾石余、佐賀領主奇附之、造営修理是又佐賀領主致之条、旁以肥前国百姓所答理運也、依之肥前国百姓所指之勝尔用之、各加印判、兩國境相定、以繪図裏書裁許、

松浦壱岐守 北条安房守 松平美濃守 萩原彦次郎  
右出座 戸田能登守

本多紀伊守 能勢出雲守 稻生伊賀守 諸星伝左衛門  
大久保加賀守殿 戸田山城守殿 御加判  
阿部豊後守殿 土屋相模守殿

〔七〕 国境

土屋相模守殿御出座式日跡立会

元禄三年正月廿二日

一後藤覺右衛門御代官所讀岐国直嶋領と松平伊予守領分備前国胸上村漁獵論事、度々令糺明処不及沙汰上者、胸上村百姓有謂条、胸上村

理運ニ申付畢、且又石嶋□之事、備前国絵図ニ者半分書載、讃岐国絵図ニ者全書載之候、雖然先年檢地至于今年貢納來儀為歴然間、弥以可為直嶋分旨、以絵図裏書裁許、

右出座 戸田能登守  
加藤佐渡守 甲斐庄飛驒守 松平美濃守 荻原彦次郎

本多紀伊守 北条安房守 稻生伊賀守 諸星伝左衛門  
大久保加賀守殿 戸田山城守殿 御加判  
阿部豊後守殿 土屋相模守殿

〔八〕 村境

一上総国望陀郡林村訴候者、同郡河原井村と往還道を隔兩村之境明白  
二相別候由申之、河原井村百姓答候者、右之大道より南北江差越村境之由雖申之、不謂事候条、随大道筋境相定候、但南北細道之方ハ河原井村之細道より東江入來有之上ハ、峰際を限り兩村之可為境、且林村之松、從河原井村理不尽ニ伐採ニ付、松苗千本令栽□、為過料百石ニ付鳥目式貫文令出之、庄屋牢舎申付、令絵図裏書下置、但松木伐取候兩人圖取申付、忝人令牢舎候、

坂本内記 甲斐庄飛驒守 大岡備前守 佐野六左衛門  
右出座 彦坂伯耆守  
本多淡路守 北条安房守 中山隱岐守 国領半兵衛

〔九〕 村境

貞享三寅二月廿三日  
一稻葉出羽守知行所下野国山本村と内藤大和守知行所同国門毛村境山論之事、境山之儀一向致支配旨訴之、門毛村之者為兩村入会旨答

之、遂糺明処、論所之山本村之枝郷境村之畑所々有之、且又此山号境山上者、為境村之山事分明也、刺門毛村右山江入秣刈取節、山本村之者鎌押置候処、門毛村吉左衛門以書札、於境山柴盜刈候鎌請取度旨、山本村江申遣候、然則非入会事無紛、但境之北致開発候纒之田式ケ所為凡平式畝廿七步之内由門毛村雖申之、兩所共相離有之、水帳之面名主不相見間、可為山本村之田地、門毛村之者不可綺旨、以絵図裏書裁許、

右出座 大久保安芸守 甲斐庄飛驒守 大岡備前守 佐野六右衛門  
坂本内記 彦坂伯耆守  
本多淡路守 北条安房守 中山隱岐守 国領半兵衛

〔一〇〕 田畑

貞享三寅七月廿六日  
一甲州門前村百姓と同村広嚴院、秣論訴出候処、広嚴院境内ニ無紛候、然処境内ニ百姓開來畑并家居雖有之、其俣為差置之、尤年貢者任旧例可出之、但越石高壺石六斗余者、寺領江令収納、其年々免合を以門前村地頭堀三郎左衛門方江ハ広嚴院より可収之由、以絵図裏書裁許、

右出座同断  
田畑

〔一一〕 田畑

元禄七戌三月六日  
一下総国千手村・宮村・犬塚村と同国分郷犬塚村秣論、為檢使柘植伝兵衛手代小野朝之丞手代差遣令檢分処、於入会野拾年以来新発仕出、寛文年中之水帳反歩林之儀不書載、然上者為新開新林条無紛、去々

年御代官江可荒之証文差出、此度三ヶ村相談之上荒候処、枝郷犬塚村令難渋段非分候間、千手・犬塚両村地内二有之新林新開并百姓兩人持来候三反拾三步之屋敷悉可荒之、且又入会野之内犬塚村名古致所持候壹町五反六畝拾壹歩之所、六拾年以前川欠跡、林二仕立候由申之、林之中二川跡有之、西ノ方林二式尺廻・三尺四五寸廻リ之木数多有之、為古林事無紛間、可立置、東ノ方林壹尺廻余之木有之、見分之上新林二相見候間、可荒之旨、以絵図裏書裁許、

松浦壹岐守 能勢出雲守 松平美濃守 荻原彦次郎

右出座 戸田能登守 稻生伊賀守

本多紀伊守 川口撰津守 井戸三十郎 諸星伝左衛門

(一一二) 社役田畑

貞享三寅十一月廿五日

一駿州志田村・八幡村青山八幡宮社人三右衛門と同村百姓太郎兵衛・勘左衛門、田畑屋敷諍論之事、しんこの坪しほ田両所之田地并古川跡之畑、太郎兵衛致押領、同所之洲崎勘左衛門掠取之、屋敷取立令居住由、三右衛門訴之、遂糺明処、両所之田畑、太郎兵衛令收納祭礼役相勤段、慶長年中・寛永十九年両通之証文為分明間、今更可取放儀、尤無謂条、弥如先規太郎兵衛可進退之、但五斗式升六合之貢米三年分不納之由、太郎兵衛非分之至也、急度弁済之、向後不可難渋、次二古川跡之畑横六間豎式拾壹間之所境相分、太郎兵衛支配無紛、洲崎屋敷之儀、新堤築切於神領之下、勘左衛門数年竹木栽圃、屋敷取立之上者、勘左衛門弥可支配之、就中三右衛門事古証文背、太郎兵衛神役料之田地可取返由申出、次勘左衛門屋敷為神領之外処、自分支配地之由申掠、且又田中領百姓新発之畑を上之堰土取場之由

偽之、其外对神主社僧社人、種々企非儀及諍論儀、甚以私曲二候、依之江戸并駿州一国会追放、以絵図裏書裁許、

大久保安芸守 甲斐庄飛驒守 大岡備前守 佐野六右衛門  
右出座 坂本内記 彦坂伯耆守

本多淡路守 北条安房守 仙石和泉守 国領半兵衛

(一一三) 田畑新盛

元禄五申七月六日

一御留守居番岩瀬吉左衛門・杉原四郎左衛門・村瀬伊左衛門・大久保淡路守与力知行并大久保安芸頭組小普請馬場源太左衛門・藤堂伊代守組稻垣半之丞知行所上総国中嶋村、右地頭より拾六年前檢地申付候処、越石出来、名主源兵衛越石之田畑ひかへ候処、与力知行名主市郎右衛門義、新盛を付、非分之割付致旨、源兵衛訴之二付、各評議之上右之頭々江相返、与力共召出、新古之無構各地頭方より水帳を仕立、其上反別二石盛を付、百姓方江可相渡旨申付候処、取箇之儀如何可仕由与力共申之二付、反取・高取両様之内勝手次第可致由申渡、

松浦壹岐守 北条安房守 松平美濃守 荻原彦次郎

右出座 戸田能登守

本多紀伊守 能勢出雲守 稻生伊賀守 諸星伝左衛門

(一一四) 社地門前

元禄三年八月廿五日

一鈴森八幡別当蜜巖院同神主森田左兵衛、相手同所百姓又右衛門・弥兵衛、茶屋地諍論之事、御代官地二而、毎月收納之鳥目者地代二而

無之、八幡講集錢之由百姓雖申之、別当神主方江月並取之、御代官所之課役一切不勤来上者、百姓所訴非抛之至也、自今以後弥以社地相定条、可随别当神主之下知旨、以書付裁許、

右出座 戸田能登守  
加藤佐渡守 甲斐庄飛驒守 松平美濃守 萩原彦次郎

本多紀伊守 北条安房守 稻生伊賀守 諸星伝左衛門

〔一五〕 御朱印地畝歩不足

元禄二巳五月十四日

一常陸国海老ヶ嶋村大勝寺 御朱印地畑方之内八畝八歩之所、頼母知行所鍋山村名主清左衛門茅野之内江仕込候由訴出二付、遂穿鑿処、御朱印地他領之茅野江仕込候ハ、早々可訴出処、数年之間不申出、其上茅野江仕込候証拠無之候、然者御朱印地畝歩不足之儀、諸国之社領ニ数多有之間、大勝寺訴訟之趣不取上之、

出座右同断

〔一六〕 御朱印社地

元禄五申十一月六日

一常陸国江村社主宮内社地領ニ高拾五石其外沼廻り見取場、給所之節地頭より付置候 御朱印地之由申之、江村名主伝兵衛・平左衛門答候者、御朱印地之外ニ而有之由申二付、守屋助次郎方ニ而令僉議之処、水帳ニ茂無之候へ者、御朱印之社地ト難申二付、右拾五石并沼廻りハ宮内方より取上之、年貢之儀者守屋助次郎取立之、御蔵入ニ可收納旨申渡、尤名主伝兵衛・平左衛門ニ茂右之趣申渡、

松浦壹岐守 北条安房守 松平美濃守 萩原彦次郎

右出座 戸田能登守

本多紀伊守 能勢出雲守 稻生伊賀守 諸星伝左衛門

〔一七〕 山

元禄四未十一月十四日

一甲州八代郡藤埜村・大久保村・白井河原村・寺尾村と同郡鶯宿村山論之事、右五ヶ村申者、鶯宿村ハ北ハ名取山境より南者ねんは境、東中蓋川境、西ハ古閑境迄、鶯宿村共ニ入会、藤岱トウタイ・上曾根両村之高ニ結、山年貢拾七石余両村地頭江令收納、此内大久保・白井河原・寺尾三ヶ村ハ藤岱村江請納ニ致之、尤鶯宿村者為山元旨訴之、鶯宿村答候者、五ヶ村より申候四方境之内者則鶯宿村水帳之高百三石余并苧生年貢三俵余之田畑有之而、為村付之山処、五ヶ村請所之山ト申掠候、鶯宿山之年貢、他村之高ニ可入謂無之、其上請所之場者藤岱村之内ニ有之□三ヶ村之請収藤岱江収之段、証拠之由申之、右遂礼明処、双方所論不分明、山者雖為鶯宿山、拾ヶ年以來五ヶ村之者入候処、鶯宿村百姓其通ニ差置、至当春漸押止儀難立条、如有来五ヶ村之者鶯宿山江入会稔・薪可採之、但藤岱村・上曾根村之小物成、鶯宿山之年貢トハ雖難決之、村高ニ結候分ハ、両村地頭江収之并大久保・白井河原・寺尾三ヶ村之者藤岱村江致請納儀、可為先規のことく旨、貞享四卯十一月十四日絵図令裏書裁許、然処今般居林畑之立木迄藤岱五ヶ村之者伐採旨、鶯宿村百姓訴之ニ付、為檢使永田作太夫・高室安右衛門手代差遣之令檢分処、居林之儀非入会段無紛、其上近村之者ニ相尋処、居林江者他村之者不入義通例之由、証文差出上者、向後弥家之向神田山屋敷附之後山を限り、鶯宿村可為内山、勿論畑際之立木、藤岱五ヶ村之者一切不可伐採之、且鶯宿



村内山之外ハ如前々双方六ヶ村入会秣・薪可採之、但藤岱村百姓理不尽ニ松木伐採ニ付、為過怠庄屋老人三十日令牢舎旨、以絵図裏書裁許、

出座右同断

〔一八〕 山

元禄七戌二月廿九日

一信州伊奈郡箕輪領八ヶ村と同郡高遠領六ヶ村山論之事、箕輪領百姓訴候者、四年以前諍論之節、相絵図之面霧沢山之内南者野田打、北者樽沢・丸山沢迄入会候処、高遠領地内ニ相極り、箕輪領百姓一切不可入旨裁許有之候、併往古より霧沢山江入来候道九筋有之、其上证文数多致所持候由申之、高遠領百姓答候者箕輪領より通候道無之旨申之、先年檢使差遣令吟味処、霧沢山之内銀山間歩証文并菓鷹下候節地頭役人より遣候書状、高遠領致所持条、高遠領持山ニ相定候、箕輪領百姓入会候証文其節不差出ニ付、一切不可入旨令裁断候、今度箕輪領百姓入会候証文致所持旨訴出候ニ付、又為檢使柘植伝兵衛・小野朝之丞手代差遣令見分処、御代官所之節設楽太郎兵衛出置証文絵図之面、箕輪領より裏山江通候道と書之、右同人手代下古田村江差越候書状文言、入会山ニ而伐採候材木無相違北小河内村江可通と有之、且又板倉頼母役人より下古田村江遣候証文、築道具入会山ニ而可伐採旨載之、下古田村近辺霧沢山之外入会候山別ニ無之、檢分之上箕輪領より裏山江通候道九筋儘ニ相見候条、箕輪領百姓所指勝尔用之、引墨筋境立之畢、地元ハ高遠領ニ相定間、箕輪領百姓可入会、依之先年裁許之絵図取上之旨、以絵図裏書裁許、

松浦志岐守 能勢出雲守 松平美濃守 荻原彦次郎

右出座 戸田能登守

稻生伊賀守

本多紀伊守

川口摂津守

井戸三十郎

諸星伝左衛門

〔一九〕 山 新開

阿部豊後守殿御出座式日跡立会

貞享三寅三月十二日

一上州馬山村と同国野上村山論之節、中嶋東方ハ野上村地内ニ而、開発新田大分有之、野上村為地元段無紛処、於入会之地高山村よりも数十年新畑開置之、今更難荒ニ付、右反歩員数応し年貢野上村江馬山村より向後可出由、以絵図裏書裁許、

大久保安芸守

甲斐庄飛驒守

大岡備前守

佐野六右衛門

右出座

坂本内記

彦坂伯耆守

本多淡路守

北条安房守

仙石和泉守

国領半兵衛

〔二〇〕 野 新畑

貞享三寅六月廿五日

一武州田無村と同国前沢村野論之節、南武蔵野者如前々可為御料私領入会、尤川越領野守共一切不可支配、且又新畑古荒畑跡之由雖申立之、証拠不正間、可潰之旨以絵図裏書裁許、

出座右同断

〔二一〕 野

元禄元辰十二月十四日

一上総国市原郡番場村之者申趣者、内野境南者明神境より北者連行境押沼村ニ至り、入会野境者北者朝日ざし、南者かわやき為古塚境由

訴之、草刈村之者ハ為内野由申之、然共番場村申所之内野境・入会野境証拠無之、殊ニ論所之内草刈村之古畑所々ニ有之上者、番場村所訴難立間、草刈村之野江一切不可入旨、以絵図裏書裁許、

出座

(二二) 野

貞享三寅十月十四日

一上総国貝渕村と万多野村野論之事、万多野村雖為地元、入会野之内新開畑之儀難立条、有来反歩之分者其俣差置、自今以後新開新林一切不可致之旨、以絵図裏書裁許、

出座

(二三) 野

元禄二巳十一月晦日

一大久保伊左衛門知行所下総国鷺沼村と金田惣八郎・秋山修理亮知行所同国久々田村野論之事、久々田村百姓申候者、正保年中右野之内供養塚築之候二付、從久々田村防之候、其節達而詫言申候故、証文取之其俣差置候、鷺沼村為野内由申候得共、於為野内者不可及其儀由申之、遂糺明処、久々田村申通証文之面無紛上ハ、鷺沼村雖為地元、入会刈来候段分明也、但鷺沼村百姓近年裁開候畑林者荒之、向後双方共一切不可裁開旨、以絵図裏書裁許、

右出座

(二四) 茅野

元禄三年正月廿五日

一石黒小右衛門・稲葉平右衛門御代官所、田村助太夫・秋山十兵衛・堀七郎右衛門・脇坂甚兵衛・坪内惣兵衛・細井金五郎・諏訪兵部・飯河善左衛門・天野孫七・長谷川五兵衛・杉浦三之助・秋田平太夫・曲淵市太夫・須田大隅守知行所上州海老瀬村四郎右衛門訴出候者、八十年以來七拾八町歩之茅野所持任、毎年茅野錢収来候処、通旅籠町浅右衛門新田二可取立之旨、地頭方江致訴訟、相談之上新田二被申付候故、四郎右衛門数十年持来茅野、只今被取放候而ハ及謁命候由歎候二付、御老中江相伺候へ者、地主四郎右衛門名田同意之茅野、科も無之二可取放謂無之間、新田開かせ候義、可為無用旨被仰渡、且御代官石黒小右衛門・稲葉平右衛門右之旨承合、野錢可納旨、四郎右衛門二申渡、

右出座

(二五) 草野

一下総国岡田郡古間木村と同郡大生郷草野并飯沼藻草論之事、去辰十月

二月諍論之時、古間木村新畑大生郷檢地帳二載之年貢納候儀無紛、飯沼運上并下草野錢御代官江収候証文差出之二付、大生郷可為理運之旨申付候、然今度古間木之者訴候者、論所之内畑際ニ植置候松杉千本余伐採、剩古畑統之古新畑堀荒候由申之二付、大生郷之者召寄令対決処、野錢場之内ニ有之松杉、古来大生郷より令支配処、古問木之者盜伐候故、此方より茂小松百五拾本余刈採候、新畑之儀、古問木村より可荒分其俣差置候故堀荒候由申之、不分明二付、為檢使守屋助次郎・太田弥太夫手代差遣見分之上遂諭議処、論所野錢場之由ニ而、証文雖令所持、証文之面名所無之、其上大生郷返答書ニ野錢場之地拾五町余と記之二付、檢使則町歩相改処、舟戸より東之

野拾五町二越候条、論野者野錢場之為外段無紛間、旁以古間木村為地元儀歷然也、且又近年所々致新開候畑之内を、去辰冬諍論之砌、大生郷百姓論所より東壺里余隔り候しのほろ金戸之新畑水帳を論所之水帳と称し、大和田西東と字を付替差出候儀、今般詮議之上露頭いたし候、然則後藤舟戸より西之野者古間木村野二相定候、但論野之内ニ有之古新畑、大生郷高二入候分ハ、畑年貢者如有来大生郷江収納之、其外之畑者古間木村可進退之、藻草之儀、役錢出来候村々ハ取来候、古間木村之者古来役錢不出候処、去秋猥ニ取候ニ付押留候由、大生郷申之、檢使於彼地近隣村々令吟味処、役錢無之取来例七ヶ村有之、其上魚鳥漁獵致候村者役錢出之、藻草ニ役錢無之段分明ニ候条、向後如先例地先次第可採之、且今度大生郷之者古間木村地廻り之木伐候儀雖争之、見分之上松杉大小四千三百本余伐採根迄堀候跡有之而狼藉之至也、并古間木村之畑押而荒之、其上他所之水帳を論所之水帳之由偽をかまへ、所々致書加、殊ニ大生郷野錢証文を以論所茂為野錢場由申掠、段々以計策企訴論儀、依為私曲、大生郷庄屋兩人令牢舎、且村中百姓為過怠百石ニ付三貫文ツ、為出之、苗木壺万本可植返之旨申付、以絵図裏書裁許、且右庄屋伊右衛門・新右衛門儀死罪、

右出座

(二六) 山林并秣薪

貞享三寅二月十四日

一奥州平領富田村と同国窪田領小川村山林論之事、富田村其外七ヶ村訴ハ、小川村其外五ヶ村并里方拾式ヶ村山江平領従前々入薪秣取来由八ヶ村申之、窪田領者終ニ不入会由雖申之、七拾年以前より一領

之節、八ヶ村山錢を出し来候段明白ニ候間、向後如先規窪田領山江可入会、先地頭以来留山、今以為 公儀林間、薪秣計可為如先規旨、以絵図裏書裁許、

右出座

(二七) 山林

元禄二巳六月廿五日

一山川三左衛門御代官所上野国新川村市郎左衛門と鳥居權之助知行所同村主税助林論之事、市郎左衛門持分之林を地頭林之由申之、右林之木ニ地頭用木と書付札付候由訴之ニ付、遂穿鑿処、權之助領分ニ属し候地元為八幡之内由主税助雖申之、一円証跡無之、其上先年以檢地林分ヶ之節、双方百姓田畑居屋敷迄相分れ候処、市郎左衛門壺人給所分之林可抱謂無之条、主税助申掠段分明也、然者企非儀、御料所分之林猥ニ改書付、依為不届ニ為過怠牢舎、向後市郎左衛門林弥可為御料所分之地旨、以書出裁許、

右出座

(二八) 境内山

一上総国鹿野寺と田倉村十郎兵衛・五郎兵衛境内山論之事、鹿野寺門前五郎兵衛令押領旨鹿野寺訴之、五郎兵衛・十郎兵衛答候者先領主令寄進候由雖申之、証拠無之、五郎兵衛儀鹿野寺方より乍受扶助構計策企非儀、甚以重科也、依之五郎兵衛牢舎之上令梟首候、十郎兵衛一同ニ虚忘致段令露頭候間、於獄屋令死罪候、子細留帳ニ有之、

右出座

(二九) 川

大久保加賀守殿御出座式日跡立会

貞享二丑九月十二日

一 下野国都賀郡<sup>縁川</sup>村訴出候者、寒川村と両村之間ニ有之巴沼川<sup>後</sup>、寒川村之者於縁川地堀新川、河岸之畑所々潰候旨申之、寒川村答候者古川之流、寒川居村江懸り候故、七拾年以前先地頭川通直ニ堀替、其後十九年以前又浚之候処、終不及異論、此度又川並悪敷成行候ニ付、任先例川通直ニ浚候由雖申之、縁川村之者不致納得之上、為私堀候儀越度也、因茲今般各加了簡寒川村之畑縁川之方ニ有之分ハ如先規令進退之、向後両村之境、地先より随流限川之中央境相定、以繪図裏書裁許、

右出座

(三〇) 川

貞享五辰七月六日

一 常陸国鹿嶋郡沼尾村と同国行方郡水原村入海川境諍論、沼尾村ハ従古来川通為両村之境由申之、水原村答者諸浦之例入海者中分を境ニ用來候由雖申之、陸地之川境を以海中江流入候水筋を可為境義難立候、自今以後入海之中央限之、漁獵并藻草可取之旨、以繪図裏書裁許、

右出座

(三一) 川

土屋相模守殿御出座式日跡立会

元禄五申六月四日

一 羽州荒興屋村・成沢村・新見興屋村・旧沢村と狩川村古川論之事、

荒興屋・成沢・旧沢・新見興屋四ヶ村申候者、六拾壹年以前采女谷地を掘切、新川ニ致之ニ付、為其代古川跡致支配候、中棚・采女両谷地ハ狩川村借野ニいたし年貢納来候処、狩川村之もの古川跡江新堤築之新開致候由訴之、狩川村答候者、先年一領之時新川堀替候得共、古川跡于今令支配畑作来旨申之、遂礼明之処、先年一領之時中棚・采女両谷地之中を掘切、新川ニ致之、以来古川跡百姓令支配畑数ヶ所有之、雖然古川者新川之為替地間、年貢右両谷地一同ニ都合拾俵ツ、荒興屋村江可收納旨、以繪図裏書裁許、

右出座

(三二) 堤

阿部豊後守殿御出座式日跡立会

貞享三寅十二月十二日

一 遠州上輪四ヶ村と下輪拾四ヶ村水除堤論、為不分明ニ付、為檢使石野彦八郎・八木仁兵衛被差遣候処、松原・桜田・松山・初越・西崎・中野戸・羽野・小嶋方右村々百姓於江戸両檢使江差出証文之面、新堀屋敷之後敷之内古堤ニ無紛由記之、今度彼地見分之節、古堤之所一切無之旨重而致証文段、虚妄之至也、依之為科失右村々庄屋八人、寅十一月十二日令禁獄候処、古堤之儀ニ付偽之証文致候段誤候旨致訴訟ニ付、同廿二日出牢、

右出座

(三三) 堤川除

大久保加賀守殿御出座式日跡立会

貞享四卯三月廿二日

一武州忍領三拾八ヶ村と同領西村其外四ヶ村、利根川通堤川除普請出入、五ヶ村之者近年背先規人足竹木等不出之旨三拾八ヶ村訴之、五ヶ村之者答候者、御料之時分四拾三ヶ村一同二勤候得共、私領二相別候而者別二江袋村之堤普請有之付、右之役儀不致旨雖申之、属私領より以来及五拾年相勤、至近年令違背段非分二付、為過怠五ヶ村庄屋令牢舎、以来任古例可勤旨、以絵図裏書裁許、

右出座

(三四) 堰

貞享二丑八月廿五日

一上総国神崎村と同国大馬屋村堰論之事、神崎村之堰、当夏水下大馬屋村之者破之、押而引水之旨訴之、大馬屋村ハ右神崎川從先規用水二引来候処、神崎村致新堰二付、令破却由雖申之、神崎村古水帳堰免之由式ヶ所二載有之上ハ、神崎村前々堰来候儀無紛条、向後右之堰場大馬屋村之者不可防之旨、以絵図裏書裁許、

右出座

(三五) 用水

阿部豊後守殿御出座式日跡立会

貞享三寅三月廿二日

一上総国家子村と道庭村水論、谷之流出水今度道庭村より水口塞之由訴之、道庭村用水堰普請致之、家子村江不遣之由答之、遂詮議処、家子村之非用水段明白ニ候、然二道庭村、家子村之者水下村々江竊ニ水為引取候段私曲ニ候、依之為過怠両村之庄屋令牢舎候、弥如先

規拾壹ヶ村之用水家子村不可綺旨、以絵図裏書裁許、

右為檢使伊奈半十郎手代・大久保平兵衛手代遣之節、同国求名村者家子・道庭両村之依為隣村、求名村之者呼出候処不罷出、其上両村水論之儀、証拠□□儀申段成間敷旨、檢使方江手形差出ニ付、求名村地頭江原甚右衛門・渡辺図書・三宅新五左衛門方江百姓可差出旨申遣、尤御代官成瀬五左衛門方へも申渡、寅三月十四日召出シ、百姓九郎右衛門・九郎兵衛・仁右衛門・五左衛門・紋三郎牢舎申付候、同十四日出牢申付ル、

右出座

(三六) 獵場

寛文五己九月六日

一房州真門村と同国江見村浦獵諍論、令糺明処、江見村・和田村入会致漁獵、右之浦年貢從両村出之、其上慶安元年江見・和田海中出入ニ付、真門・三原・池田百姓共取扱之、和田・江見如先年入会ニ相定之旨証文有之条、遠野村・花齒柴村・仁家村之前浦たりといへとも、弥如先規江見・和田両村ニ而致支配漁獵入会可仕旨、以書出裁許、

右出座

(三七) 獵場

一関東筋浦々ニ而河豚繩張候得者、魚獵妨ニ成、諸魚不被取旨、貞享二丑年相州三崎長右衛門・房州天津村帶刀訴出候ニ付、壹本針ニ而鰻釣候段ハ各別、鰻繩張候儀可令停止旨、浦々之者ニ手形申付置候処、今度又候上総国宇原村・房州千倉村・坂下村・石小浦之者共鰻

繩張候を見付相断候へ者、誤候旨手形取之、評定所江差出二付、右四ヶ村之名主辰四月廿五日牢舎、同五月廿五日令出牢候、其節相州・武州三拾壹ヶ村浦々より新肴場江積送り候魚共横買仕間敷旨、手形申付ル、

右出座

〔三八〕 獵場

戸田山城守殿御出座式日跡立会

元禄二巳二月十二日

一肥前国五嶋領之内五嶋佐渡守領分有川六ヶ村、相手同国五嶋竹之助領分魚目五ヶ村漁獵場論、度々糺明之上双方所論証拠一円不正、凡海之儀、磯獵ハ地付次第、沖者為入会段諸国之通例也、然ニ有川磯潮満際壹尺迄魚目村之為獵場由申之段不分明、就之各評議之上磯獵ハ地付次第、沖ハ入会ニ相定、以絵図裏書裁許、

〔三九〕 秣場

元禄二巳正月十四日

一下野国都賀郡小葉七ヶ村と上井出村秣場論檢使申付候以後、上井出村之もの入会野畑際ニ桃木・楊梅栽之、依為不届、為過怠庄屋壹人令牢舎候、且小葉七ヶ村之者も高二結候畑を新開と申立、埋不尽ニ歛ニ而荒候儀為非分ニ付、是又庄屋壹人令牢舎処、何茂出牢、

右出座

〔四〇〕 論所人殺

阿部豊後守殿御出座式日跡立会

元禄三年六月廿二日

一鍋嶋刑部知行所下総国山野辺村と浅野伊左衛門知行所同国与倉村野論ニ付、於論所打合、山野辺村百姓式人蒙疵其夜相果候由申出二付、令穿鑿処、山野辺村之者以強勢催人数、非分之野境相立候故、与倉村之者及鬪論候、其上被打伏候もの、其場ニ不差置之引取候、以後相果其節茂与倉村之者ニ死骸不為見之段々不念之致方、其上打候相手を差、妻子等雖申之、手元見届候証拠無之上者、強而不及沙汰、雖然於論所及鬪論打合致候儀為不届ニ付、与倉村助六・長藏過怠令牢舎旨、絵図裏書ニ書載裁許、但右兩人午七月十二日出牢、

右出座

〔四一〕 御林木盗人

元禄三年九月十四日

一近藤彦九郎知行所遠州引佐郡祝田村と秋鹿長兵衛御代官所同郡都田村三方原諍論之事、両村入会之場ニおゐて祝田村百姓之子佐之助御林之木伐旨申掠、山守等搦之、御代官江差出牢舎ニ成候由申之、都田村ハ鳳来寺道東之御林木数千三百本盗伐候ニ付、山守并村中廻り佐之助を捕候由答之、右論所并盗伐候林之場所不分明ニ付、為檢使岩出瀬兵衛・古郡文右衛門被差遣之、見分之上件之論林ニおゐて松木千三百本從祝田村伐採候由都田村申之ニ付、遂吟味処、伐跡式千六百本余有之而木數令相違候、山守助次郎於御林之内六七百本盗伐候由致白状候、畢竟山守猥成故、外より茂伐採之、助次郎依為重科死罪之上獄門ニ懸之、悴吉次郎斬罪、右佐之助儀御林之内木盗候由都田村之者雖申之不明義、於場所枯枝取候ニ付為過怠令牢舎候、次下都田村庄屋惣左衛門義、今度諍論ニ付段々仕方為不届故、是又

為過怠牢舎之上庄屋役取放候、右以絵図裏書裁許、

右出座

(四二) 御林木盗人

貞享二丑五月廿五日

一 国領半兵衛御代官所武州長崎村御林之内ニ而小木武本、関口村伝左衛門盗取候段無紛ニ付牢舎、諸道具欠所申付候処、寅五月八日就御法事出牢之上江戸追放、

右出座

(四三) 秣盗人

貞享二丑十月廿五日

一 堀田对馬守知行所常陸国北条村虎藏・彦助儀、同国仏生寺村・小野越村・高蒲沢村・辻村・青田村、右五ヶ村御運上出候札山江右兩人罷越、秣盗刈取候段、依重科、虎藏・彦助牢舎之上於獄屋令斬罪、首者於彼村獄門ニ懸之、

右出座

(四四) 裁許破

戸田山城守殿御出座式日跡立会

貞享三寅九月十二日

一 石川又四郎知行所房州洲崎・坂田・波佐間村と同国川名・井戸村獵場論、天和二戌十一月四日以絵図裏書、礮之儀者其村限ニ可致漁獵之由裁許申付候処、又々及訴論ニ付、寅八月六日右両村之者牢舎申付候、内証ニ而取扱候出家も偽申ニ付閉門申付候、誤候旨重而致訴

訟ニ付出牢并閉門免之、

右出座

(四五) 裁許破

元禄三年二月廿五日

一 菅沼撰津守与力知行所上総国牛込村と大久保源七知行所同国中野村用水論之事、牛込村用水依為不足、中野村江牛込村ニ有之きさなこ・貝類可遣間、中野村之余水牛込村江取度旨、拾弍年以前訴出ニ付、書付を以其通ニ申付候処、中野村ニ而近年致新開ニ付、余水牛込村江不通旨、牛込村之者訴出ニ付、令詮議処、中野村之者先裁許背候段無紛不届ニ付、名主・与頭・年寄午二月廿五日令牢舎、同三月廿五日出牢、

右出座

(四六) 裁許破

貞享五辰五月廿五日

一 安藤平七郎知行武州都筑郡下麻生村と富永主膳知行同郡早野村水論、去卯九月早野村理運ニ申付之、樋寸法相定候処、先裁許今般早野村之者共我俣ニ右之用水水口之丸木樋を箱樋ニ改之、幅并深一倍ニ致之、溝底も深く浚之不届ニ付、早野村庄屋父子令牢舎、同六月廿五日兩人出牢、

右出座

(四七) 相絵図滯

大久保加賀守殿御出座式日跡立会

貞享五辰二月廿二日

一常陸国大曾根村同国篠崎村・佐村野論、立合絵図仕立可出旨申付候  
処、三年迄相滞二付、一応牢舎申付候処、依致訴訟令赦免候得共、  
又候相絵図令難渋二付、再牢申付候、然処絵図可仕立旨致訴訟二付  
令赦免、絵図為仕立候、

右出座

〔四八〕

背御代官

貞享三寅七月廿五日

一間瀬吉太夫御代官所武州鴻巣領須戸野谷芝野町歩大分有之処二、野  
錢不出場所も有之由、浅草高原茶碗師平兵衛店善兵衛出居業清兵衛  
訴出二付、為致檢地候へ者却而町歩減候、依之重而無謂訴訟仕間敷  
旨、御勘定頭於内寄合申渡候処、御老中其外江茂訴出、剩御代官吉  
太夫儀迄非分二申成、其上阿部豊後守殿知行所百姓二而無之二訴訟  
可調敷と存候由二而偽申旨白状、旁清兵衛重科二より評定所江召出、  
令牢舎候処牢死、

右出座

〔四九〕

背地頭

貞享五辰七月六日

一蒔田数馬知行所撰州熊野田村百姓地頭申付背候旨、地頭より 公儀  
江被申上二付、評定之面々可遂詮議旨御老中被仰渡二付、評定所江  
召出穿鑿上令牢舎、頭取兩人者令死罪、妻子追放申付、田地家財ハ  
欠所申付、頭取之外五人熊野田村五里四方追放申付、田畑取上家財  
者無構旨、地頭家来二申渡、西紺屋町惣兵衛儀、在所熊野田村之者

にて有之処、紺屋町江致住宅、右之者共在江戸中之店請二立、其上

致腰押候段不届二付、江戸并熊野田村追放申付、  
右地頭背之類者詮議之上御老中江窺裁許申付ル、

右出座

〔五〇〕

背地頭

阿部豊後守殿御出座式日跡立会

貞享二丑十一月廿二日

一大沢主水知行所遠州山田村權三郎・小太夫儀、先年不届有之二付、  
地頭より為致手形追放申付候処、今度不謂訴訟申二付兩人牢舎、但  
御朱印持出二付取上、評定所江納置、且權三郎寅正月牢死、小太  
夫儀同寅三月廿六日死罪、

右出座

〔五一〕

背地頭

元禄<sup>元力</sup>三辰十月三日

一相良遠江守江御預之椎葉山百姓遠江守申付を背、御代官所江致訴訟  
二付、遂詮議処、非分之訴訟申出不届二付、百姓拾三人遠江守江被  
下候間、自分仕置二可申付旨、御老中依被仰渡、辰十一月十一日遠  
江守家来召出、右之趣申渡ス、

右出座

〔五二〕

背地頭逃散百姓

戸田山城守殿御出座式日跡立会

元禄四未六月廿二日



一有馬左衛門佐領分日向国坪屋村・山陰村三百竈之百姓、郡代梶田十郎左衛門代官大崎久左衛門仕置嚴敷有之旨、知行廻り候目付津隴三郎左衛門方江訴狀雖差出、難立訴訟二付不取上候、然処右之百姓在所立退、秋月長門守領分同高鍋江罷越候二付、長門守在所留置当地江訴来二付、可遂詮議旨御老中依被仰渡、右坪屋村・山陰村百姓貳拾貳人・訴狀認候林田半藏・郡代・代官・左衛門佐家来并秋月長門守家来召寄、未三月五日より於評定所度々札明之上、同六月廿二日有馬主殿并左衛門佐家来有馬忠右衛門召出、坪屋村善内・市郎兵衛義、為致騷働候為頭取段重科二付、在所江遣し磔ニ懸ル、兩人男子ハ死罪并妻女子ハ奴、山陰村十右衛門・佐次兵衛・孫助義、市郎兵衛・善内一味致候段不届二付、於在所死罪、又次郎・庄之丞・関之助・久五兵衛・覚之丞・太郎助義、一烈仕候段不届二付、伊豆小嶋江流罪、林田半藏儀、右之百姓不届無筋目義申立候訴狀之致筆者、其上令荷担不届之仕方二付、於在所死罪、左衛門佐郡代梶田十郎左衛門・大嶋久左衛門儀、領内之百姓共立退候二付、遂詮議候処、一通り之申分ハ相立候へ共、常々申付不宜故令騷働候、依之兩人追放、右之外山陰村百姓八人・坪屋村百姓四人者御構無之二付在所江帰ス、并半藏召仕權十郎儀者御構無之二付在所江帰ス、右之段於評定所申渡之、左衛門佐も御老中より可致逼塞由被仰渡、其上所替被 仰付候、

右出座

(五三)

背地頭

戸田山城守殿御出座式日跡立会

元禄五申十一月十四日

一松平頼母知行所武州志多見村百姓五拾四人より名主佐左衛門私曲仕旨、頼母方江致訴訟二付、地頭方ニ而令吟味候処、百姓共依為非分、相名主孫兵衛・組頭甚右衛門・六兵衛・治右衛門追放申付、利左衛門・治兵衛・十右衛門追込置申付候趣、頼母方より書付差出二付可遂詮議旨、秋元但馬守殿依差図評定之面々令吟味処、頼母申付候段、非儀無之儀を相背大勢致徒党申募段不届二付、江戸江罷越候百姓三拾五人之内拾四人、申十一月四日牢舎申付、貳拾壹人者誤り候旨申二付、其科免し在所江帰ス、五拾四人之内在所ニ残候者共、申付令違背者於有之者頼母方より奉行所江可相達旨、家来瀧沢郡平・今田吉左衛門ニ申渡、右牢舎之内拾壹人牢死、但相残治兵衛・太右衛門・瀬兵衛、御老中江相伺、出牢之上在所十里四方追放、妻子ハ在所ニ其俣可差置旨申渡ス、

右出座

(五四)

背地頭

元禄六西四月廿五日

一佐橋内藏助知行所武州稲毛領久末村百姓三拾九人高免之訴訟、秋元但馬守殿江訴狀差出二付、内藏助同役方ニ而吟味之上、於評定所可遂穿鑿旨依被仰渡、右百姓訴狀并内藏助差出候以書付令詮議処、難相立訴訟但馬守殿迄申出、旁以為不届二付、右百姓三拾九人之内二三拾四人、西四月廿五日牢舎、殘五人者同五月十二日牢舎申付候処、拾貳人牢死、殘貳拾七人者出牢申付ル、

右出座

〔五五〕 背地頭逃散百姓

元禄七戊閏五月廿五日

一堀田河内守組小普請溝口半左衛門知行上総国米満村・又留村百姓逃散仕候儀、評定之面々可遂詮議旨依被仰渡、百姓目安并半左衛門差出候口上書之趣令穿鑿之処、地頭心得違之儀も有之候得共、百姓不謂申分多相聞候、縦地頭非儀有之候ハ、訴訟仕様も可有之処、逃散之儀不届二候、俵之舛目并欠米口米之儀、通例とハ替り弥重二取立候様相聞候、未進之儀も久年之儀を只今ニ至り取立候儀、用捨可有之事二候、勘定違者未進とハ難申候、其上檢見ニ遣し候家来路銀等百姓二出させ候段、地頭心得違二候、山崩等者其年々貢引候儀通例二候処無其儀段、無用捨相聞候、惣而地頭より申付候年貢役儀仕置之儀、百姓不致得心段者、双方二心得違在之候、其外目安二有之箇条百姓不謂儀申出二付、百姓拾式人牢舎申付、右之趣御老中江相伺、頭取六人遠嶋申付、残六人出牢之上在所へ歸ス、妻子無御構、家財欠所之不及沙汰、且地頭半左衛門地方六百石御取放、御蔵米四百俵被下旨、堀田河内守江御老中被仰渡、

〔五六〕 名主私欲

大久保加賀守殿御出座式日跡立会

貞享三寅二月四日

一伊奈半左衛門御代官所武州深沢村半右衛門・八兵衛・其外拾九人訴出候者、同村名主孫右衛門私欲有之由申出二付、遂詮議処偽二相極、寅十二月四日廿壹人牢舎、同廿二日拾三人出牢、頭取半右衛門・八兵衛・其外六人者卯二月令出牢候、名主孫右衛門ニ以来仇仕間敷由、証文申付ル、

右出座

〔五七〕 田地永代売

一奥村七左衛門知行所武州石井村茂兵衛田地、悴十左衛門加判二而、同村金兵衛方江永代ニ買置、又候金兵衛方より彼田地小沼村七之助・石井村勘右衛門方江質物ニ遣し金子借之、返済滞旨、双方訴出二付遂詮議、永代売依無紛売主茂兵衛、七月廿五日より八月七日迄令牢舎、右田地取上売主之地頭可領知旨申渡、金子為致損候、金兵衛儀、七之助・勘右衛門方江質金為可相済牢舎不申付、兩人方江金子可済由、日切手形申付、茂兵衛儀者所追放、悴十左衛門義加判仕候段不届二付、在所より召寄不及牢舎、所追放申付、家財之義ハ欠所之不及沙汰、

右出座

〔五八〕 永代売

貞享四卯三月十四日

一本多備前守知行所下総国下留谷村甚左衛門義、八日市場村惣兵衛方江田地永代二売候旨令露顯二付、卯三月廿五日右之甚左衛門并証人之者共牢舎申付、同四月十四日出牢之上、甚左衛門者在所追放申付ル、且買主惣兵衛儀者病死二付、悴助七召出田地取上、売主之地頭可領知旨申渡、金子可為損旨申付、不及牢舎在所江歸ス、

右出座

〔五九〕 永代売

貞享五辰正月十四日

一齊藤飛驒守知行所武州北見方村之百姓五人田地論申出、手形差出之  
処、永代売ニ無紛ニ付、売主・買主・証人共ニ辰正月十四日牢舎申  
付、同二月廿二日双方出牢之上、売主ハ在所追放、買主ハ在所江帰  
ス、買主之内伝三郎、前方相果候、其妻と一所ニ成候七郎兵衛儀、  
養子とハ為各別ニ付不及牢舎、買主金子為致損、田地取上之、売主  
之地頭可領知旨申渡、売主悴御構無之、家財欠所之不及沙汰、右証  
文之内ニ八拾歳余ニ成候者有之処、老体故入牢赦免、

右出座

〔六〇〕 永代売

元禄二巳七月廿五日

一松平因幡守知行所下野国小栗村惣内畑式反五畝歩余之所、同村源左  
衛門方江永代ニ売渡置、其手形ニ惣内不致印形候旨相諍、尤岡村名  
主才兵衛手形認候由申之、惣左衛門証人ニ而売渡候段無紛ニ付、売  
主・買主・証人者不及申、才兵衛手形認候段不届ニ付、惣内悴文左  
衛門儀、致腰押不届ニ付、右五人七月廿五日牢舎、八月十二日出牢  
之上、売主父子江戸・在所追放、名主・証人・買主者在所江帰ス、  
買主金子損ニ為致論畑取上候、惣内儀手形ニ乍致判形相争ニ付、所  
持之田畑迄取上候間、地頭可領知旨申渡之、

〔六一〕 永代売

一恒岡左太夫知行所上州富岡村上町・中町之百姓四拾八人、喜多見若  
狭守・寛源左衛門知行所同国瀬下町百姓四拾三人、田畑売買之訴論、  
遂詮議処、天和二戌・同三亥・貞享三寅年、手形拾三兩差出之候、  
永代ニ売渡との文言ハ無之候得共、買主子々孫々迄名畑可致由之文

言有之、或者子々孫々之文言ハ無之候得共、可請返との文言無之、  
或者為祝金請取候由之手形有之候、然者手形之面、永代ニ田畑売渡  
との文言雖無之、各評議之上、永代売買□令決定ニ付、田畑売主八  
人・買主拾壹人・証人拾六人為過怠十一日宛双方牢舎申付、出牢之  
上売主八人在在所追放、買主拾壹人・証人拾六人ハ出牢之上在所江相  
返ス、田畑取上金子為致損、如先規可領知旨、喜多見若狭守家来寺  
田市左衛門・寛源左衛門家来堀内理右衛門・恒岡左太夫家来山田弥  
三郎ニ申渡、売主之内吉兵衛儀、地頭若狭守方ニ而八藏と名を替、  
致中間奉公罷有候ニ付、召出令牢舎、出牢之上在所追放、右手形之  
外瀬下町助之丞、売主ニ而作右衛門証人ニ立、上町飯塚留兵衛方江  
元和九年亥十二月買取候由手形雖差出之、田畑永代売買御停止之儀、  
寛永二十年未三月より被仰出候、夫より以前之手形、其上売買主共  
相果候ニ付、不及沙汰、

右出座

〔六二〕 落名并永代売

一平岡治郎右衛門御代官所甲州上野村内膳儀、高尾庄三郎知行所之内  
ニ而、田畑拾式石余買求候而、年貢名主市郎右衛門方江年々納候処、  
右田畑之内落石有之ニ付、落年貢拾ヶ年分金六百五拾兩内膳方より  
可出旨致催促候へ共、内膳合点不仕ニ付、右田畑不殘地頭庄三郎方  
江被取上、剩御代官所分之内田畑茂其内ニ入交候由内膳訴之、市郎左  
衛門者内膳買取候地之内落年貢有之ニ付、拾年分利倍を加、金六百  
五拾兩可遣旨申遣候へ共、不致承引ニ付、地頭江申達、田畑取上候  
由雖申之、不分明ニ付、伊奈半十郎・石黒小右衛門手代申付、勘定  
為致吟味候処、市郎左衛門儀、年々割付を出し勘定過不足不念ニ致

し、其上過分之金高を申懸ケ、地頭江茂右之旨申立、田畑不殘取上、剩御料所之田畑迄取立候段為私曲ニ付、市郎左衛門遠嶋申付候、弟八郎左衛門儀、永代売いたし、其上市郎左衛門非分之出入致荷担候ニ付、同罪申付、内膳儀者自分持高之年貢割付次第出候由雖申之、數年過不足も不存不埒之仕方、殊實地之内永代売買之手形五通有之ニ付、令牢舍候処、致牢死候、此外七郎兵衛・六右衛門・半兵衛・四郎兵衛・平兵衛者永代田地売主并為証人ニ付、通例之御仕置申付ル、

右出座

〔六三〕

年季不限質田地

元禄二巳二月十二日

一小栗源次右衛門知行所武州三ヶ尻村六左衛門と同村長兵衛田地論之事、長兵衛方より六左衛門方江田地売渡候証文、永代売之文言者雖無之、不限年季、可請返之文言も無之上者永代売依為同事、売主長兵衛六月四日牢舍、証人・買主も同六日牢舍、金子為致損二田地取上之、売主之地頭如先規可領知旨申渡、六左衛門・伊兵衛同十四日令出牢、在所江返ス、同廿五日長兵衛出牢之上所追放申付、家財欠所之不及沙汰、

右出座

〔六四〕

質田地

一伊奈半十郎御代官所武州原嶋村勘兵衛訴候者、同国西新井村治郎左衛門致所持候五郎左衛門分・三左衛門分と申名主田地并七兵衛分三軒之田地合七町八反三畝七步、代金三百六拾五兩二相定、延宝六年

二月勘兵衛買取、当分式百式拾五兩治郎左衛門方江相渡、殘百拾兩不足ニ付、右田地之本証文質物ニ書入、午暮より濟候筈之預り証文、治郎左衛門方江遺置、田地ハ不殘勘兵衛請取致支配候処、午暮茂金子調兼候故、治郎左衛門と相談之上翌未正月田地屋敷、治郎左衛門方江当分相渡、年々作徳ニ而殘金致勘定、皆濟次第田地請取候筈ニ仕、數年治郎左衛門方ニ而為致支配候、最早作徳ニ而預り金之都合ニ可成間、田地請取度旨勘兵衛申之、治郎左衛門答候者、勘兵衛方江相渡候田地、本証文金高三百六拾五兩之内百九拾五兩致不足、百七拾兩ニ売渡筈ニ仕、午二月金六拾兩請取、殘而百拾兩午暮可相渡旨預り証文取置候、若滯候ハ、前方出し候六拾兩之金損ニいたし、田地相渡立退可申旨手形文言ニ書入候処、殘金難相濟由ニ而、田地屋敷明渡し候故、未正月より治郎左衛門請取田地令支配候旨治郎左衛門申之、右田地・本証文并預り手形令点檢処、金三百六拾五兩ニ相定、右之内式百五拾五兩治郎左衛門請取、殘金百拾兩勘兵衛預り候旨雖載之申分疑敷ニ付、伊奈半十郎方ニ而為致吟味候処、治郎左衛門申通実直段ニ而金百七拾兩ニ勘兵衛預り致手形遣候へ共、右金不濟ニ付田地者治郎左衛門致支配候段無紛候、依之所之田地直段為承候処、悪田地故百七八拾兩位所相応之為直段由所之者申之上者相互ニ偽り倍金之手形取替候段巧ニ相聞不届ニ付、前方治郎左衛門請取候金六拾兩、公儀江取上之出入不及裁許、且双方差出候証文可

右出座

〔六五〕

質田地

元禄二巳閏正月六日

一市野惣大夫御代官所遠州上石田村弥左衛門儀、服部主殿知行所同村源左衛門・与左衛門田畑質物ニ取置候処、与左衛門・源左衛門儀、科有之而、地頭主殿方より追放申付候ニより、右質田地、地頭方より村中惣作ニ申付候間、弥左衛門方江相渡間敷旨、主殿名主五左衛門・吉左衛門雖申之、弥左衛門方江一応質物ニ取置候上者金子可相濟、若不相濟候ハ、質地弥左衛門請取作付可仕旨申付候処、名主五左衛門致違背ニ付、牢舎申付、同三月出牢、

右出座

〔六六〕

質田地年貢地主勤

一阿部伊予守知行所上総国小沢村新太郎・同国岩舟村甚右衛門儀、阿部志摩守知行所同国沢ノ谷村伝左衛門・治郎兵衛方より田畑質物ニ取金子貸候処、伝左衛門倅伝次郎・治郎兵衛倅伝三郎、理不尽ニ稱刈採候旨申之、伝次郎・伝三郎ハ兩人父相果、幼少ニ候間、右畑なかし可申候間、金主方より年貢納候様申候得共、不致承引旨答之、遂詮議処、伝左衛門・治郎兵衛儀、地頭知行之内我俣ニ田地質ニ入金子借り、年貢諸役相勤候段不届ニ付、新太郎・甚右衛門者右兩人方より田地質物ニ取、作徳取之、年貢地主方より為納候段不届ニ候、却而此度新太郎・甚右衛門訴出ニ付、詮議之上金主新太郎・甚右衛門并置主治兵衛・伝左衛門雖相果、其子伝次郎・伝三郎跡式致相続上者、旁以其科依難逃、江戸并在所追放申付、右田地者取上之、売主之地頭可領知旨申渡、金子為致損ニ候、

右出座

右之質地之類、在々数多有之及訴論ニ付、評定之面々相談之上御老

中江相伺、御法度被仰出候写、

覚

一質物田地之事、質地取置候方より年貢相納候儀者為通例之処、田畑ハ金主方江相渡、年貢者田畑元主方より出ス者有之由相聞、不届之至也、向後者不及申前々より右之通雖相定置、於頭者双方共ニ罪科可申付事、

一永代売買之事、前々之通可為停止事、

貞享四卯四月

〔六七〕

年貢地主勤

一大岡弥左衛門知行所相州高田村縫左衛門訴出候者、太田善大夫知行所同国田蔵村長兵衛・忠左衛門方より年季を定、田畑質物ニ取金子貸渡候処、貞享三寅迄者年貢諸役地主方より相勤候へ共、卯年より年貢諸役ハ質地取候者方より可勤旨被仰出ニ付、田地請取、縫左衛門方より可勤旨田地主方へ申断候へ共、承引不仕、剩田地無体ニ押取候旨訴之ニ付、詮議之上畑主長兵衛・忠右衛門并証人・口入之者共十一月四日牢舎申付候、且金主縫左衛門儀、質地年貢諸役田畑主勤候御法度不被 仰出以前質ニ取候得共、右田地及訴論ニ付揚り屋江入置候処、倅十左衛門父縫左衛門禁獄之儀を嘆、其身牢舎申付候様達而致訴訟候段、御老中迄申上候処、縫左衛門儀、卯四月右御法度被仰出候ニ付、早速田畑主方江年貢諸役可勤由申断候間、御法度以後ニ質地取候とハ格別ニ候、殊倅訴訟之趣、御聞届之上可令出牢旨被仰渡ニ付、同六日縫左衛門令赦免在所江返ス、右畑主長兵衛・忠右衛門、同廿五日出牢之上在所追放、証人・口入同日赦免、証人之内久兵衛・治左衛門儀、裁許之節不參ニ付、名代二平三郎・武兵

衛出候故牢舎申付同日赦免、久兵衛・治左衛門召寄廿五日より牢舎、十二月六日赦免、質ニ取候田畑取上、畑主之地頭前々之通可令領知旨申渡、

右出座

〔六八〕

年貢地主勤

一前田八郎左衛門知行所下野国渋垂村八郎右衛門持地之下田、夏目藤左衛門知行所同国早川村茂左衛門方江質物ニ書入田地相渡、渋垂村忠兵衛・文右衛門証人ニ立、年貢諸役懸り物ハ八郎右衛門可勤旨手形ニ書載候段不届ニ付、地主・証人・加判人・買主共二七月六日牢舎、同廿二日四人共出牢之上、地主ハ江戸・在所追放、買主ハ田地取上、金子為致損、在所江帰ス、田地者売主之地頭可令領知旨申渡、証人・加判人出牢之上在所へ帰ス、

右出座

〔六九〕

年貢地主勤

一中根大隅守知行下野国江連村助右衛門と岡部伯耆守知行所同村市右衛門・孫右衛門田地論之事、遂詮議処、孫右衛門・市右衛門田地、助右衛門方江質ニ取、金子貸年貢諸役ハ地主方より勤来候処、御法度被仰出ニ付、金主方より年貢可勤旨、右田地廻りニ有之桑木可刈取旨、助右衛門訴ニ付、手形吟味之処、地主方より可相納旨有之上者、双方共ニ御法度依相背候、午九月六日より双方并証人牢舎申付、同廿二日出牢之上、買主・証人者在所江帰ス、田地取上、金子為致損候、売主者江戸・在所追放、田地者売主之地頭可領知旨申渡、

右出座

〔七〇〕

年貢地主勤

一松平主計頭知行所武州阿佐間村孫右衛門田地を玄正坊方江質物ニ入金子借り候処、玄正坊相果、甥青物町徳兵衛ニ右之証文讓候処、年貢諸役者地主可勤旨書載置、却而三年分之年貢諸役之可致勘定旨申懸候段、地主孫右衛門御法度相背、其上手形も不替、重々不届ニ付、孫右衛門并証人午九月六日より牢舎、徳兵衛儀者伯父玄正坊より、譲り手形を以手形仕替候様申断候上者、一理相聞ニ付不及牢舎、同月廿五日売主・証人出牢之上江戸・在所追放、買主ハ金子為致損、田地売主之地頭可領知旨申渡、証人出牢之上在所江帰ス、

右出座

〔七一〕

町並

分付屋鋪

一伊奈半十郎御代官所阿左布龍土町助左衛門訴出候者、同所久左衛門儀由緒有之、私分付表口九間之屋敷ニ差置、貞享四年右屋敷四間口切、同所左兵衛ニ売申候、町並地子五間口ニ金式分之積いたし、四間口より銀式拾四匁宛左兵衛方より請取、残久左衛門五間口者前々之通銀拾六匁六分五厘宛取来候処、助左衛門身代不罷成、所持之屋敷茂質物ニ書入家守仕罷有候ニ付、名主・惣百姓江頼町屋敷地徳久左衛門・左兵衛出<sup>（口カ）</sup>候共、向後百姓江相渡、御年貢役、惣百姓ニ而相勤候筈ニ礼金拾壹両式分請取申筈ニ約諾いたし、久左衛門・左兵衛ニ名主為申聞、証文・案紙出候処、久左衛門・左兵衛右之証文ニ判形不致由申之、久左衛門・左兵衛答候者表口九間之屋敷、久左衛門親代より讓請御年貢役等勤来候処、八年以前四間口左兵衛ニ渡、残五間口久左衛門持来候処、助左衛門屋敷惣百姓江相渡候と申

証文式通相認、其文言ニ久左衛門・左兵衛兩人屋敷を書入致判形候様助左衛門并名主申越候故、不致判形旨答之、双方申分不明ニ付、伊奈半十郎方ニ而為致吟味候処、名主方より出候証文、久左衛門・左兵衛答之通相違雖無之、久左衛門方より助左衛門方江遣候手形ニ我等居屋敷表五間之所、上納銀者格別毎年拾六匁六分五厘可相渡文言有之、且左兵衛儀、久左衛門方より屋敷請取候翌年、名主方より年貢納之儀書拔遣候処、納之之外銀式拾四匁宛助左衛門方江出候由ニ候、然者分付百姓と相問候へ者、分付離候事難成候、助左衛門義、地主を所之者方江金拾貳兩貳分ニ可売渡、左兵衛・久左衛門分付を離度候ハ、拾壹兩貳分を間口割ニ成共坪割ニ成共いたし、助左衛門方江相渡、分付離候様致し候歟、又者左兵衛調候屋敷所之者方江相渡、代金七拾兩請取候共、只今迄之通地子出し分付百姓ニ而居候共、勝手次第第二可致候、久左衛門義も右之通たるへし、且又向後地子之儀、他江売候儀、悪敷候間地子売候ハ、其分付之もの方より金子相对次第地主方江出し、分付離可申旨申渡、次ニ名主方より出候証文ハ心得違之文言故、可為反故旨申付、右之通半十郎方ニ而証文可為致旨申渡候処、追而久左衛門・左兵衛裁許破不謂儀申出届ニ付、兩人牢舎申付、惣而籠土町ニ而之致方悪敷候へ共、只今迄者其通、向後者右裁許之通、地主方より作徳売候ハ、分付百姓方江可売之、脇々之者方江一切為売間敷旨、名主・五人組ニ申渡、委細御勘定頭内寄合箱ニ在之、且左兵衛・久左衛門出牢、

右出座

〔七二〕 町並家屋敷

貞享二丑九月廿五日

一上総国木更津村百姓家屋敷永代ニ売渡置及訴論候得共、田地ニ而無之町並之屋敷永代売之儀者為制外条、其内内証ニ而扱度旨双方申之ニ付、其通申付ル、

右出座

〔七三〕 預ケ田地

貞享三寅四月廿五日

一常州高田村百姓田地同国市崎村百姓方江数十年預置、年貢諸役者預り之方より納来候処、田地主跡式令退転ニ付、高田村名主方より雖及異論、証文有之而市崎村之者久年預来候間、其通年貢諸役ハ如前々為相勤可致作旨申付ル、

右出座

〔七四〕 位違

元禄二巳十一月十日

一上州新宿村百姓拾人訴出候者、新宿村畑拾五町貳反七畝歩ハ四拾三年以前先地頭地詰帳相究、館林領ニ成、其後給所江相渡候処、同村百姓四人持候畑者下畑ニ而候処、水帳ニ書違、下々畑と有之ニ付、下々畑之年貢取来候処、当巳年より下畑之年貢納候管相究候之処、同国里矢場村伊右衛門不致承引旨申之ニ付、遂詮議処、野帳ニ者下畑と有之、水帳書違ニ無紛候、依之一座相談之上御代官所之下畑給所江相渡、右下々畑御代官所江為請取之、畑并百姓共ニ替合之地頭江年貢過不足無之様可申付旨申渡、

右出座

〔七五〕 入石

元禄二巳八月六日

一下野国兵庫村百姓と同国戸垣村之者、田畑廿一年以前より取替、入石致作来候之処、兵庫村之者方江取返度由雖申之、戸垣村之水帳之写二兵庫村之名主判鑑有之上ハ、只今迄之通可致作旨申付ル

右出座

〔七八〕 馬次

貞享四卯七月十日

一三浦壱岐守知行所下総国大木町問屋訴出候者、大木町者從江戸奥州江往還道ニ而人馬勤来候、同国上山川村・中村・山王三ヶ所之河岸より荷物陸附仕来候処、所々川々江商人荷物直ニ積送候故、往来之駄賃荷物少成御役馬難勤由雖申之、数十年無異儀馬繼来候処、今般及諍論段無謂候、依之不及裁許、

右出座

〔七六〕 小作

松平日向守殿御出座式日跡立会

貞享二丑十二月四日

一本多紀伊守知行所下総国上総内村六郎左衛門方江一色源次郎知行所同国二本村百姓四人方より田地買置候由訴之、詮議之上右四人儀、田畑書入十二年以前三年季ニ相定、六郎左衛門方より銘々金子貸り候段無紛候、不致返済候ハ、田畑永く六郎左衛門方江可扣置旨致証文遣、其上手形迄銘々遣之上者、只今ニ成四人之者及異儀候段無謂候、六郎左衛門方江遣置候定之如証文、作徳無滞可相渡旨申渡、但金子済候ハ、六郎左衛門方より彼田畑可相返、尤金子不済内ハ異儀申間敷旨、右四人・六郎左衛門ニ為取替証文申付ル、

右出座

〔七九〕 船次

貞享四卯三月六日

一上総国筒森村其外枝郷式拾式ヶ村之百姓川船ニ而薪積下候処、相手本郷村之もの押留之旨訴ニ付、遂詮議処、右岩川者本郷一村ニ而堀抜候故、川上之薪、本郷河岸・五井河岸於両所順々舟繼来候由、本郷村之者雖申之、本郷村計ニ而堀抜候証拠も無之、殊船積之薪所々繼替候儀、川上村々之可為障間、向後右河岸ニ而船繼替候儀、可為停止旨、書出を以裁許、

右出座

〔七七〕 海道

寄馬

貞享二丑七月廿五日

一下野国築田町・八木町者依為日光海道、館林御領之節、外四拾壹ヶ村より寄馬出し来候処、四拾壹ヶ村之内七ヶ村寄馬令遲滞旨、築田

〔八〇〕 廻船

元禄四未五月六日



一相州高座郡柳嶋村と同国須賀村廻船論之事、相模川先年者須賀村地内を通り候故、須賀一村二而廻船致来候、其以後柳嶋村地内江流寄候二付、廻船取立馬入渡船役も勤由柳嶋之者申之、双方詮議之上、柳嶋村致廻船候例無之由須賀村雖申之、須賀村一村二可相究旨無謂二付、向後兩村二而致廻船渡舟役可勤旨、書出を以裁許、

右出座

〔八一〕 船荷物盜売

貞享五辰十二月四日

一駿州大宮町百姓拾四人・同国黒田村百姓式人与商売茶六百拾老本、同国沼津領我入道村宇平次舟二積、宇平次悴与五兵衛船頭二而積廻候処、相州辻堂浦二而難風二逢致破船荷物不残海中江捨り候旨、宇平次・与五兵衛方より茶主方江申遣候処、相州古和田村清八、右之茶致商売候旨荷主拾六人訴二付、双方召出令穿鑿処、海辺二捨り有之茶拾ひ取揚、清八所持之茶二交合致商売之旨清八雖申之、海辺二捨り候茶取揚候証拠無之、破船荷物海辺之掟背候段重科二候、其上馳上候儀不慥、清八申分難立候、与五兵衛・宇平次申分猶更難立、三人共不届二付、辰十二月十四日令牢舎、辻堂村名主四郎左衛門・十郎兵衛儀、破船辻堂村江走上候節、兩人立合改候而茶荷主江早速不相通御法度相背、剩於其所右之茶清八二為売候段不届二付、兩人共同日令牢舎、各評議之上、宇平次・与五兵衛・清八儀、浦々御法度之趣相背段依為重科、巳四月廿六日宇平次・清八令死罪候、与五兵衛儀者牢死二付不及沙汰、四郎左衛門・十郎兵衛儀牢死、

右出座

〔八二〕 廻船盜荷物

一本湊町与太夫店十右衛門と紀州古座清水村市右衛門・徳右衛門鏡荷物之出入、遂穿鑿処、通四町目左兵衛荷物従大坂積廻候処、熊野浦二而致破船荷物少茂不取上旨申来候処、左兵衛荷物之内鏡荷物、紀州古座浦市右衛門方より本湊町十右衛門方江送遣候処、十右衛門右之訳不存、手代与兵衛二為持江戸鏡屋江弘二出候を、左兵衛見付、与兵衛并鏡共二十右衛門二預置訴之二付、十右衛門二尋候処、右市右衛門方より送候荷物二而、何方より出候荷物共不存由申之、市右衛門者大坂船頭八太夫方より次郎右衛門と申もの買取候を紀州橋杭村松右衛門肝煎二而、次郎右衛門方より買取候由申之、其上八太夫方より松右衛門方江遣候状二鏡荷物之儀、網引之拾ひ荷物之由買取候者方江申呉候様二頼由申二付、松右衛門方より右之状市右衛門方江遣候、然者最前左兵衛荷物積下候節八太夫盜取候由相聞候、其上右鏡海中江入候鏡二而者無之由二候へ者、旁以八太夫仕方不届二付、申四月十四日牢舎申付、外之者共ハ其通二而相帰ス、然処於牢内八太夫拷問之上白状申候ハ、下人孫兵衛義、橋杭江懸り候荷物拾ひ取候由申之二付、同五月十四日孫兵衛召出令詮議処、申分難立間、是又令牢舎候、且右荷物肝煎候松右衛門儀呼二遣候処、致病死二付、同六月十四日次郎右衛門召出、八太夫・孫兵衛と対決申付候処、曾而不存旨雖申之疑敷間、次郎右衛門牢舎、紀州藤川浦庄屋清六・同国串元浦庄屋甚六・同浦肝煎新作儀、右荷物盜物と不存浦手形出候由雖申之、不念之仕方不届二付、同六月廿五日牢舎、同国清水浦市右衛門義、松右衛門方より盜物買取疑敷事有之間、同日牢舎申付、右荷物者八太夫水主左次太夫・長次兵衛兩人盜取、孫兵衛二為持橋杭村松右衛門方江銀四拾目二売候由、孫兵衛致白状候間、左次太

夫・長次兵衛召出、遂詮議候処、左次太夫者孫兵衛申通致白状候、長次兵衛者申争候得共、左次太夫白状之上者同類ニ無紛候、且又大坂ニ而浦手形出候六兵衛・三郎兵衛義召出、相尋候処、申分立候間、其通ニ而相返候、然処左次太夫申十一月、長次兵衛酉二月、新作同月、次郎右衛門同六月、甚六同九月、五人共牢死、

右出座

〔八三〕 船頭并船宿私曲

貞享五辰五月十四日

一勢州岩手村八兵衛廻船、同村船頭清右衛門乗候而、紀州より江戸湊町与平次方江炭薪附送り、靈岸嶋白銀町仁兵衛方を舟宿ニ致候処、右之船奥州南部江相廻シ、右清右衛門致船頭、江戸江材木積廻し、江戸着致候而茂舟宿仁兵衛江不相断、舟松町瀬取舟宿伝兵衛方江致脇宿、其上舟道具質物ニ差置候旨舟主八兵衛・舟宿仁兵衛訴出ニ付、遂穿鑿処、舟頭清右衛門儀、南部より罷帰、定舟宿仁兵衛方江者不致宿、伝兵衛と密談いたし、伝兵衛方小宿ニ仕、剩船道具質物ニ差置、伝兵衛儀、廻船之宿ニ而茂無之処、清右衛門と相對ニ而致脇宿、其上舟道具之質請ニ立候段、兩人共依為不届、清右衛門・伝兵衛牢舍申付処、清右衛門牢死、辰九月伝兵衛儀令出牢候、

右出座

〔八四〕 荷物押

松平日向守殿御出座式日跡立会

貞享二丑八月廿二日

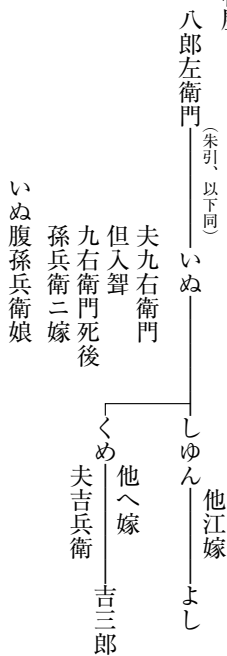
一京都寺町二条通上ル町藤屋伝右衛門儀、八月十九日品川ニ而大坂荷

物ニ出合忝駄押置、京都より之荷物忝駄有之由申候而、理不尽ニ荷物切ほとき取候ニ付、荷物才料伝兵衛右荷物伝右衛門ニ預置候処、高木伊勢守方江右荷物伝右衛門持參候而、大坂荷物之内江京都之荷物を入、飛脚伝兵衛持下り候故、京都之飛脚宿致難儀由伝右衛門申候得共、御法度ニ而茂無之処、荷物押へ切ほとき不届之仕方故、伝右衛門ニ手鎖懸ケ、江戸宿ニ預ケ候処、同廿日荷物才料伝兵衛町奉行所江荷物被取候由訴来ニ付、於評定所僉議之上、伝右衛門仕方依為不届牢舍申付、荷物ハ飛脚宿左内町甚兵衛ニ相渡、銘々相届候様申渡、且伝右衛門儀、同十月廿六日於獄屋ニ死罪、首者品川ニ而獄門ニ懸之、

右出座

〔八五〕 跡式

檜物屋



〔翻刻者注、系図の下から左にかけて〕

よしを孫兵衛存生之内貫、善兵衛子善三郎入聲ニ致候処、善三郎不行跡者故、善兵衛方へ返し、其以後孫兵衛弟子長左衛門をよしと一所ニいたし、祖父孫兵衛跡式を譲り、高祖父八郎左衛門遺跡相続、然処ニ吉兵衛子吉三郎をよしと一所ニ為致旨雖論、孫兵衛存生之内

孫よしニ譲り候筈ニ定置段無紛ニ付、吉兵衛并妻くめ  
訴趣難立候、依之後添之後家心次第、よしニ可讓旨申  
渡ス、

貞享五辰四月十四日

一 数寄屋町八郎左衛門儀、男子無之娘いぬ壱人有之二付、九右衛門を  
智養子ニいたし、いぬと夫婦ニ致置候処、八郎左衛門相果候故、九  
右衛門跡式相続致候処、いぬ腹ニしゆんと申娘壱人出生、九右衛門  
儀しゆん三歳之時相果候、依之九右衛門後家方江孫兵衛と申者參候  
而後家いぬと夫婦ニ成、いぬ腹ニ又々娘くめ出生いたし候、然処姉  
娘しゆんをも、他之家へ縁付、くめをも吉兵衛と申方江縁付候、い  
ぬも相果、しゆん腹ニ娘よし致出生候を夫孫兵衛貫ひ、善兵衛悻善  
三郎と養子合ニいたし、孫兵衛跡式を善三郎に為統候筈ニ定置候処、  
孫兵衛儀三年前相果申候、右善三郎儀行跡不宜候ニ付、実父善兵  
衛方江孫兵衛後添之後家方より相返し、孫兵衛弟子長左衛門としゆ  
ん娘よし致夫婦、跡式相続候、就夫くめ・夫吉兵衛・吉兵衛子吉三  
郎を養子ニ遣度旨吉兵衛雖訴之、孫兵衛存生之内一応跡式をよしニ  
譲り候筈ニ定置段無紛候へ者、くめ申段難立候、孫兵衛存生之内よ  
し・善三郎ニ跡式譲り候家財ニ候へ者、孫兵衛後家心次第、よしニ  
可讓旨申渡ス、

右出座

〔八六〕

跡式



松平日向守殿御出座

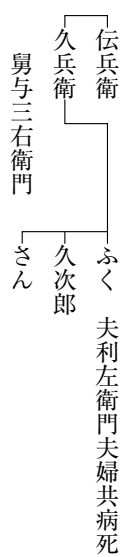
貞享二丑十月廿二日

一 赤坂伝馬町七兵衛、妻子不持以前より姉之子七之丞を養子ニ可致由、  
所之五人組ニも物語仕候、其以後七兵衛妻持候処、男子出生次郎七  
二歳之時致離別候刻、次郎七茂舅方江遣置、間もなく七兵衛相果候  
処、跡式者七之丞相続可仕旨書置ニ有之二付、其通相続いたし候、  
然ニ次郎七母実子之わけ雖申出、次郎七儀不書載候間、書置之通七  
之丞可致相続候、但次郎七者弟之儀ニ候間、末々如在仕間敷旨七之  
丞ニ申渡ス、

右出座

〔八七〕

跡式



貞享四卯四月十日

一 芝三田町与三右衛門訴出候者、同所久兵衛儀者与三右衛門智ニ而孫  
三人有之候、久兵衛相果、孫共幼少ニ付久兵衛甥吉兵衛子共致養育  
候処、又候吉兵衛相果、利左衛門と申者を孫ふくと夫婦ニいたし候  
処、ふく・利左衛門も相果候、残式人之孫共養育致候ものも無之ニ  
付、家財鹿末ニ罷成候、就夫久兵衛兄伝兵衛方江孫兩人可引取由申  
ニ付、孫共迷惑之由、祖父方江參歎申由与三右衛門訴ニ付、双方召  
出、遂穿鑿処、伝兵衛儀者久次郎・さん父方之伯父血筋近ニ付、伝  
兵衛方江兩人共引取、金銀・衣類鹿末ニ罷不成候様ニ可仕旨申渡ス、  
尤祖父与三右衛門儀、心を付候様申付ル、

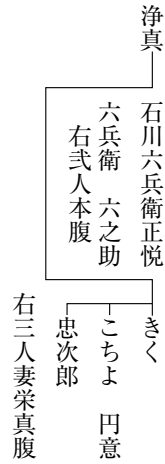
右出座

〔八八〕

跡式

石川六兵衛事

追放



戸田山城守殿御出座  
元禄元辰十月廿五日

一新両替町清左衛門店榮真倅忠次郎儀、京都ニ住居いたし候処、相果候節、遺言状ニ江戸舟町之家屋敷千五百両之活券状ニ而有之間売払、五百両者母榮真、四百両者兄六兵衛、四百両并京都家屋敷不殘姉きく、百五拾両者姉こちよ倅出家円意、五拾両ハ手代清兵衛ニ配分可仕旨遺状有之間、其通ニ仕度由忠次郎母榮真訴之、六兵衛申候者忠次郎父六兵衛事浄真儀、召仕候下女之腹ニ忠次郎出生仕、其以後彼女外江縁付、出入も不仕候、兄石川六兵衛正悦御追放被仰付候節、浄真讓金三千両正悦弟忠次郎請取遣捨、又候浄真方より讓取候舟町之屋敷売払候へ者、代々之屋敷ニ離、忠次郎跡断絶仕候間、六兵衛倅六之助を跡目ニ立度旨申段、一理相聞候得共、倅無之もの、跡式家財者母之心次第二申付来候、其上遺状も有之候へ共、一応式日ニ出之、御老中御聞届之上、忠次郎遺言状之通可致配分旨申渡、六兵衛訴訟不及裁許、

右出座

〔八九〕

跡式 讓状謀書

元禄二巳六月六日

一常陸国立延村茂兵衛実子無之、四ヶ村与三左衛門を養子いたし候、以後下腹娘きち致出生候而、茂兵衛者病死いたし候処、讓状之通田畑家財与三左衛門請取可致支配旨申二付、遺言状令点檢処、茂兵衛者辰六月十四日相果、同十二日之日付二而、其上讓状与三左衛門手跡二而、尤証人茂無之、茂兵衛一判之讓証文二而候得者、茂兵衛重病二而十方無之節、我俣ニ与三左衛門相認、茂兵衛判形押候と相見謀書同前二候、剩養父・実娘きちと家財相争不届二付、与三左衛門令牢舎候処、相手之者度々致訴訟候間、同八月十二日出牢、

右出座 戸田能登守 甲斐庄飛驒守 松平美濃守 萩原彦次郎  
本多紀伊守 北条安房守 稻生五郎左衛門 諸星伝左衛門

〔九〇〕

跡式 養子家出

戸田山城守殿御出座

元禄二巳六月六日

一八官町八郎兵衛後家訴候者、安藤次右衛門家来角口甚五右衛門媒二而、権平と申者を養子掣ニ仕候処、八郎兵衛存生之内致家出、死後ニ至立婦、跡式可取旨権平申之致迷惑由申二付、遂僉議処、権平養、養父八郎兵衛と致口論立退、死後ニ至立婦、跡可取段申之、重々不届二付令牢舎、八郎兵衛跡式者後家心次第可為旨申渡、権平儀度々訴訟申二付出牢、且権平式歳之倅預度旨後家訴之二付、其通申付ル、以来後家方江仇ヶ間敷儀仕間敷旨、尤女房并倅三之丞ニ構間敷旨手形申付、後家ニ被下置権平出牢、

右出座

〔九二〕

跡式

存生

病死

十右衛門 — 十兵衛 — 男子式人 — 下腹

舅五郎兵衛

一 武州腰越村十兵衛致病死二付、跡式下腹之男子式人有之といへとも、幼少二候間、親類之内江預置候二付其俣差置、後家者似合敷有付ケ、重兵衛跡式ハ相成成ものを見立、諸役相勤させ度旨十兵衛父十右衛門訴之、舅五郎兵衛ハ忤下腹二而も実子有之上者、後家子共之致後見、十兵衛跡式可為致相統旨雖申之、五郎兵衛娘之腹二忤無之、十兵衛親有之上者五郎兵衛申分難立二付、十兵衛跡式ハ父十右衛門可為心次第旨申渡ス、

右出座

〔九三〕

讓金争論

一 岡田太郎右衛門忤宗栄儀、弟岡田三十郎と父太郎右衛門讓金之儀二付、公事致候故、度々三十郎召出、詮議之上三十郎申分難立二付、三十郎切腹、兄宗栄儀も弟と公事仕儀不届二付、宗栄儀、天和三亥十一月十二日追放、

右出座

〔九三〕

田地



一 参州西原村彦太夫惣領伝八儀、伯父彦十郎方江金子并米致土産養子二参り、実父彦太夫跡者弟彦平次致相統候、実父相果候以後伝八申候者、実父存生之内質地ニ取置候田地伝八貰置候間可請取旨雖申之、伝八方江譲り候遺言状茂無之、其上伯父彦十郎家督を相統致なから、

弟彦平次実父方より讓請令所持候質地相争段非本意不届二付、卯正月十四日伝八令牢舎候、然処弟彦平次度々訴訟二付、出牢之上、在所江相返ス、且質地者如前々彦平次可令所持旨申渡ス、

右出座

〔九四〕

田地家

庄右衛門 — 八郎兵衛

安兵衛

宗心方江養生又候久兵衛方江

一 上州上中森村安兵衛兄八郎兵衛儀、実父庄右衛門方より同国川又村宗心方江養子ニ遣候処、宗心方より同国大佐貫村久兵衛方江十四年以前八郎兵衛を智遺跡二又候遣候処、男子壹人・女子三人持候而、

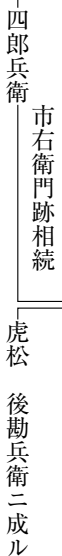
三年前八郎兵衛致病死候、然二同村名主太左衛門并八郎兵衛後家之伯父七左衛門取持候而、養父久兵衛甥五右衛門を八郎兵衛代より召仕候処、右五右衛門と後家を夫婦二いたし、田地可分取之旨令相談処、後家不致承引旨訴之ニ付、令糺明処、八郎兵衛子共兩人有之、其上後家も不致承引儀を押而取持田地引分、五右衛門ニ可為取たくミ、太左衛門・七左衛門不届二付令牢舎、八郎兵衛田地家財者子共兩人ニ為取後家可致養育、成人迄者村中百姓共可致介抱旨申渡ス、太左衛門・七左衛門出牢之上在所江相返ス、当人五左衛門者申分立候二付、不及牢舎、

右出座

〔九五〕

跡式

市右衛門 — 与兵衛 — 源兵衛 — 丹三郎 — 病死



貞享五辰四月十四日

一 武州弥五郎新田市右衛門悻与兵衛・四郎兵衛兩人有之候処、与兵衛  
二者市右衛門田畑之内三分一為分取之、残分者市右衛門方ニ差置之、  
次男四郎兵衛ニ為取筈ニ市右衛門存罷有候処、四郎兵衛儀、丹三  
郎・虎松兩人男子出生之上市右衛門より先達而相果候、其以後祖父  
市右衛門茂相果候砌、残田畑者丹三郎ニ讓候由申置、惣領与兵衛方  
より丹三郎方江手形取置候処、丹三郎茂相果候ニ付、右田畑与兵衛  
悻源兵衛支配いたし罷有候処、丹三郎弟虎松事勘兵衛方江不相返旨  
訴之ニ付、遂穿鑿処、源兵衛父与兵衛手形いたし遣置候へ者、悻源  
兵衛只今可致違背儀無謂ニ付、祖父市右衛門丹三郎ニ讓り候田畑、  
丹三郎弟勘兵衛ニ可相渡旨申付ル、

右出座

〔九六〕

田畑家財

一 下野国利保村百姓吉左衛門相果候処、同村之者共取持、後家と山伏  
定案致夫婦、吉左衛門田地・屋敷・家財定案可致支配約束ニ而一所  
ニ罷成候処、定案添候後家相果候へ者、吉左衛門弟同村門左衛門理  
不尽ニ居住之小屋取こほち、家財・田畑・作物引取候段不届ニ付、  
門左衛門牢舎申付候処、誤候由致訴訟ニ付、出牢之上右取こほち候  
小屋如元造り、家財・田畑・作物不残可相返旨手形申付ル、

右出座

〔九七〕

家財

貞享三寅六月廿六日  
一 芝居町吉左衛門訴出候者、養父左兵衛致參宮勢州ニ而致頓死候処、  
荷物并金銀大坂長堀町太郎兵衛・泉州浄栄押置不相渡由吉左衛門雖

申之、左兵衛養子ニ成候証拠無之候、浄栄并太郎兵衛儀、左兵衛相  
果候跡式を貪及訴論段、為一類身不届ニ付、左兵衛有金并家財扨代  
金六拾九兩余於評定所取上之、闕所申付ル、

右出座

〔九八〕

養子妨

貞享四卯十二月十四日

一 八木仁兵衛御代官所常陸国下妻大町市左衛門訴出候者、弟弥四郎を  
同所与左衛門方江養子ニ可遣旨相究候処、同所市郎兵衛方より以使  
申遣候者、先年弥四郎を養子ニ貫候処、父市右衛門返事致候者、他  
名者為繼間敷旨申遣候間、無是非可其通ニ致置候、然るニ此度他名  
与左衛門方江養子ニ遣候段遣恨ニ存旨申越候ニ付、双方名主并同所  
常願寺取扱候得共、市郎兵衛不致承引致迷惑旨市左衛門訴之ニ付、  
令穿鑿処、市郎兵衛妨候段無謂仕方不届ニ付、辰十二月十四日令牢  
舎候、取扱弥兵衛・十兵衛・折右衛門・加兵衛・新六・吉左衛門・  
十右衛門・庄次郎・又右衛門儀、取扱之次第不埒ニ相聞候ニ付、牢  
舎可申付候、誤候旨達而致訴訟ニ付令赦免候、且又市郎兵衛儀已聞  
正月六日令出牢、与左衛門養子ニ為遣候、

右出座

〔九九〕

主人借金

貞享四卯五月廿四日

一 大伝馬町彦丁目善右衛門店次郎兵衛相果候処、借金五百九拾兩余有  
之間、跡式家財親類方江渡度旨次郎兵衛手代庄兵衛訴出候ニ付、遂  
僉議候処、次郎兵衛弟三州能身村半右衛門・三五郎兩人雖有之、三

五郎八次郎兵衛存生之内致勘当置、半右衛門者右借金難出旨申上者、庄兵衛訴訟不取上、但家財之儀者借金之方江可致分散、重而町奉行所江可罷出旨申渡ス、

右出座

〔一〇〇〕 父借金

貞享五辰正月廿五日

一信州松本出川町八郎兵衛・源次郎方より鳥井左京亮方江初為前金三百式拾兩請取不相濟ニ付、於評定所辰正月廿五日左京亮家来ニ年賦ニ可濟旨手形申付置候処、左京亮相果候以後、息播磨守方より相濟させ度旨八郎兵衛・源次郎致訴訟ニ付、左京亮跡式之詛御老中江相候へ者、左京跡式播磨守江被仰付ニ而者無之、別ニ壹万石被下旨被仰渡上者、右之金子不及裁許、前方下置候年賦手形午二月廿五日取上、令反故候、

右出座

〔一〇一〕 養子借金

貞享五辰六月廿五日

一須田町式丁目庄右衛門方より松平因幡守養子能登守方江金百拾兩、貞享三寅十一月預置、因幡守家老堤新五左衛門・大野九郎右衛門手形取置候処、未相濟旨訴之ニ付、各評議之上能登守用事ニ而、因幡守家老共手形遣置候段雖無紛、能登守儀因幡守嫡子不繼之、実父伊勢守方江相帰候へ者、右金不及裁許、

右出座

〔一〇二〕 後住

元禄三年十月六日

一高室安右衛門御代官所上州矢場村惠林寺弟子応信・応順・貫鉄・万全訴出候者、惠林寺先住貫録致病死、後住之儀同国高松村長昌寺住持快天ニ遺書遣置候処、矢場村百姓共武州下須戸村上光寺住持源順を後住ニ可居旨申争、双方雖訴出、法式之儀、百姓共旦那るとて我假申<sup>度カ</sup>不届ニ付、午十月六日右之百姓拾式人牢舍申付、貫録遺書髓ニ有之上者、遺書之通快天可為後住旨貫録弟子応信・応順・貫鉄・万全ニ申渡、且又右拾式人之百姓共誤候旨申之ニ付、同廿二日出牢、以来仇仕間敷旨手形申付ル、

右出座

〔一〇三〕 先住借金

貞享四卯四月十四日

一麻布六本木源広寺先住檀立儀、尾張町七左衛門・山王町四郎兵衛方より金子預り候出入令穿鑿処、先住檀立去寅七月相果、当住松岩者借金有之も不存、増上寺役者も其旨不為申聞候ニ付致入院候段無紛上者、松岩不及返濟、右金者先住弟子檀益并正信寺・久保町伊兵衛証人ニ立候上ハ、三人方より可相濟旨申付ル、

右出座

〔一〇四〕 先住借金

土屋相模守殿御出座

元禄<sup>元カ</sup>二辰十二月廿二日

一浅草旅籠町八兵衛同所新寺町実相寺預金之出入、実相寺先住日真方

江寺中学乗坊証人二而金拾五兩借置候処、日真相果、当住不濟由八  
兵衛訴出二付、遂詮議処、先住日真借置候段当住不存旨雖申之、寺  
中学乗坊証人二立、其上触頭承教寺・朗猩寺江先住借金も有之者致  
入院間敷旨不相断致入院上者、当住方より可相濟、金高半分ハ加判  
人学乗坊可濟旨申付ル、

右出座

〔一〇五〕

先住借金

元禄五申五月廿五日

一本所中ノ郷先長勝寺家屋敷質物ニ入金式拾兩、同所小梅村甚右衛門  
より預置候処、長勝寺儀不行跡ニ付、去未十月御仕置被仰付候、然  
処当住長勝寺方より令難渋、其上金子不預候、入院之節町屋敷之儀、  
寺付ニ從 公義被下置候由稲葉庄右衛門申渡旨雖申之、甚右衛門質  
物手形差出、長勝寺并名主加判有之上者、当住不濟段無謂間、返濟  
候様申五月廿五日長勝寺ニ手形申付ル、若金子相滞候ハ、右屋敷可  
相渡旨申渡ス、

右出座

〔一〇六〕

先住道具

貞享三寅五月十四日

一富田大学知行所下総国長岡村妙蓮寺無住以後、弟子秀学と大久保平  
兵衛御代官所・稲生七郎右衛門知行所同村百姓出入之留、委細寅五  
月之帳面別段ニ記置之、

〔一〇七〕

女房家出

元禄四未九月廿五日

一村松町喜太郎母訴出候者、同町八郎右衛門仲人ニ而本所回向院前如  
水方江縁付候、兼而者手前も宜候由為申聞候処、内証之様子格別ニ  
付、如水と一所ニ成候儀罷成間敷由、八郎右衛門江断立退申候、然  
ニ諸道具不相返候ニ付迷惑仕候旨申ニ付、双方召出遂穿鑿処、如水  
儀不宜家業之医者故、喜太郎難添旨一理相聞候間、諸道具如水方よ  
り可相返、先達而如水方より喜太郎母親分三郎兵衛方江金五兩遣候  
内、四兩者出入ニ成、内証ニ而請取候、残卷兩未相濟由、右殘金三  
郎兵衛方より如水方江可相返旨申付ル、

右出座

〔一〇八〕

女房家出

貞享五辰二月十四日

一武州西袋新田市郎右衛門粹三之丞与同国萩嶋村三左衛門娘ふり致養  
子合、ふり祖父弥左衛門跡式相統仕居候処、ふり儀夫三之丞を嫌ひ、  
鎌倉松岡東慶寺江欠入候段不届ニ候、三之丞儀一応祖父弥左衛門家  
督相統致候間、先祖より之名主名田者三之丞只今迄之通支配すへし、  
三左衛門代ニ買置候田地ハ三左衛門方江可取戻旨裁許申付ル、且卯  
年より巳九月迄三年、ふり比丘尼相勤候間、東慶寺より暇出候旨訴  
出候ニ付、三左衛門方江可引取、然共縁付之儀者先可為無用旨申渡  
ス、

右出座



(二〇九) 夫嫌

万治四丑六月六日

一 渡辺六左衛門与力知行所上総国佐貫村佐右衛門娘、竹内弥太郎御代官所同国芝原村四郎左衛門仲人ニ而同村長三郎方江女房ニ遣候処、右女常々申候ハ、長三郎儀、何共不見届連合申間敷由物語仕候、去子八月親所江娘參候故、帰候へと申候へ共不致承引、仲人四郎左衛門并長三郎伯父喜兵衛罷越異見仕候得共、不致合点候而髮切候而暇くれ候様ニと願候二付、四郎左衛門を以其旨長三郎江申聞候へ者、親に娘を十五年預候由長三郎申越候、然処当丑四月廿一日夜、佐右衛門方江長三郎忍入、娘を押へ、日頃望を叶候へとて口をふさき鼻をかき申候故、娘驚さけひ候二付、佐右衛門押懸ケ候へ共、長三郎を見失ひ候由佐右衛門訴之、長三郎答候者、女房儀人ニ被誘引候哉、宿ニ不罷有候故尋候へ者、親佐右衛門所江参り居候、帰候へと異見仕候得共不罷帰、髮切、暇くれ候様ニと申候得共、暇不遣候故私忍入、女房之鼻をかき候由申上、致迷惑候由長三郎申之、遂穿鑿之処、佐右衛門娘儀、夫を嫌、暇茂不取、我俣ニ親所江参居候段不届二候、剩長三郎忍入鼻をかき候旨申立候得共、其疵も不分明、忍入候証拠も無之上ハ、夫ニ偽を申懸ケ、旁不届二付、女牢舎申付ル、

右出座

(二一〇) 夫嫌

元禄五申五月廿五日

一 小石川上餌差町甚十郎宿預り喜平次方江上野町二丁目新左衛門親分ニ成候而、川越久下戸村市兵衛娘ふりを女房ニ遣候処、喜平次儀先妻有之、女房ふりニ悪敷当り候二付、暇取度旨申候得共、喜平次不

致承引候二付、ふり髮を切、是非ニ暇取度旨新左衛門訴之、喜平次者先妻之儀五年以前契約致し、翌年離別いたし、其後ふりを女房ニ仕候、尤先妻ニ女子壺人有之処、相果候由申之、先妻とめ并兄川越寺尾村半兵衛召出、四年以前離別いたし候哉と相尋候処、喜平次申通相違無之旨先妻并兄半兵衛申候上者、喜平次申所偽無之、ふり申懸ケニ相聞、畢竟夫を嫌候段不届二付、ふり髮剃比丘尼ニ可致旨申渡候処、申六月六日ふり比丘尼ニいたし召連罷出候、依之喜平次縁切候様申付ル、

右出座

(続く)